二　国際連盟における諸問題

9　昭和9年1月8日　広田外務大臣より在ジュネーヴ横山(正幸)国際会議事務局長代理兼総領事宛(電報)

麻薬製造制限条約への我が方留保方法につき連盟事務当局に問合わせ方訓令

付記一　昭和八年十二月九日発広田外務大臣より在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事宛
電報第九号
麻薬製造制限条約への我が方留保につき連盟事務総長をして締約国に照会方訓令

二　昭和八年十二月九日発広田外務大臣より在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事宛
電報第一〇号
右留保宣言

三　昭和八年十二月九日発広田外務大臣より在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事宛
電報第一一号

右連盟事務総長への書簡

本　省　1月8日後11時15分発

第二號
客年貴電第一四三號末段ニ關シ
事務局側ヨリ未タ正式ノ回答ニ接セサル處事務總長モ歸任シ理事會モ差迫リタルニ付同局ニテハ理事會決議等ノ形式ニ依リ我方ノ現地位ヲ確保シ同一目的ヲ達シ得ヘキ如何ナル考案ニ達シタルヤ承知シ度ク其ノ内容如何ニヨリテハ之ヲ樞密院側ニ内示シ我方留保ヲ撤回シ得ルニ至ルヤモ知レス右ハ當方トシテモ望マシキ次第ナルカ御承知ノ通リ我方留保ニ對シ阿片部長ノ気遣ヒ居ル如ク締約國中一國ニテモ反對アルカ爲本件條約批准不能トナルニ至ラハ當然既存二條約ノ廢棄問題ヲモ惹起シ惹イテハ保健委員會ノ關係ヨリ新嘉坡東(ママ)局トノ協力問題ニ迄モ影響シ結局帝國ト聯盟トノ事實上ノ連繫ヲ失フニ至ルカ如キ重大ナル結果ヲ來スヘキニ付キ聯盟側トシテモ本件我方留保ニ對シ眞面目ニ考慮ヲ

拂フ必要アリト思考セラル此ノ點ハ貴官ニ於テ事務局側ノ腹案ヲ督促セラル、際貴官ノ私見トシテ充分先方ニ了解セシメラレ度ク尤モ本件ハ累次申進ノ通リ我方ヨリ何等懇願スヘキ筋合ノモノニ非スシテ本邦ノ協力ヲ重要視スル聯盟トシテ進ンテ我方ノ協力ヲ容易ナラシムヘキ措置ニ出ツヘキモノト思考スルニ付本件説明ニ當リテモ右趣旨ヲ失ハサル樣充分御留意相成度シ

(付記一)

本　省　昭和8年12月9日後3時発

第九號
麻薬製造制限條約留保ノ件(在「ロンドン」經濟全權宛往電第三一號)ニ關シ
政府ニ於テハ御批准ニ先チ別電第一〇號ノ留保的宣言ヲ爲シ右宣言ヲ存シテ御批准方奏請ノコトニ樞密院審査委員會ノ諒解ヲ得タルヲ以テ來年六月末日迄ニ締約國全部ノ同意ヲ取付ケ然ル後右奏請ヲ爲シ度キ意響ナルニ付テハ右御含ノ上別電第一一號書翰ヲ以テ事務總長ニ對シ締約國ニ照會方申入レラレタシ尚我方ハ聯盟脱退後モ麻薬ノ製造及制限事業ノ如キ聯盟ノ社會人道問題ニハ協力ヲ惜マサル方針ナルト共ニ此種事業ハ我方ノ協力アルニ非サレハ十分ナル成果ヲ擧ケ得サル次第ナルカ之カ爲メニハ我方カ本件條約ノ實施ニ付他ノ主要關係國ト同等ノ地位ヲ保持スルコトヲ要スト認ムルモノナリ本件宣言ハ右趣旨ニ出ツルモノナルカ右留保カ認メラレサルニ於テハ本條約ノ批准モ爲シ得サル次第ナルニ付右口頭ヲ以テ然ルヘク事務總長ニ説明セラレ併セテ關係各國ノ同意取付ケニ盡力方依頼セラレタシ

(付記二)

本　省　昭和8年12月9日後3時発

第一〇號
The Japanese Government declare that, in view of the necessity of close co-operation between the High Contracting Parties in order to carry out most effectively the provisions of the Convention for Limiting the Manufacture and Regulating the Distribution of Narcotic Drugs, signed at Geneva on July 13, 1931, they understand that the present position of Japan,

regardless of whether she be a member of the League of Nations, or not, is to be maintained in the matter of the composition of the organs and the appointment of the members thereof mentioned in the said Convention.

(付記三)

第一一號　　本　省　昭和8年12月9日後6時発

Sir,

I have been instructed by my Government to inform you that the ratification by Japan, when it takes place, of the Convention for Limiting the Manufacture and Regulating the Distribution of Narcotic Drugs, signed at Geneva on July 13, 1931, will be subject to a reservation of which a draft copy is herewith submitted.

Accordingly the Japanese Government wish to request you to notify all the other High Contracting Parties to that effect, and ask them to file, as soon as possible and at the latest by the end of June 1934, any objections entertained by them to the above reservation on the part of Japan.

I have the honour to be, with the highest consideration,

Sir,

Your obedient servant,

10　昭和9年1月15日　在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事より広田外務大臣宛(電報)

麻薬製造制限条約への我が方留保に関する連盟事務局アヘン部長の意見について

ジュネーヴ　1月15日後発
本　省　1月16日前着

第一一號(極秘)

往電第八[?]號ニ關シ[1]

事務局ニテ問題ノ重要機微ナル點ヲモ考慮シ全般的ニ研究セル結果ナリトテ阿片部長ハ左ノ通リ語レリ

(一)先ツ留保附批准ニ代ハルヘキ方法ニ關シ研究セルモ種々難關アリ殊ニ理事會ノ決議ニ依リテ日本ノ現地位ヲ確保スル方法(客年往電第一四三號末段)ハ關係諸條約締約國全部ノ同意ヲ經スシテ條約規定ヲ變更セントスルコト故理事會ニ對シ之ヲ勸告スルコトハ不可能ナリトノ結論ニ達セリ

(二)又留保附批准ニ依ル方法ハ過日述ヘシ通リ

(イ)萬一一小國カ單ニ主義又ハ技術的ノ理由ニ依テ右ニ反對セハ日本ノ批准ヲ不可能ナラシメ聯盟及關係國カ如何ニ日本ノ協力ヲ望ムモ結局之ヲ不可能ナラシムル惧アリ

(ロ)假ニ幸ヒ期限内ニ異議ヲ述フル國無キ場合ニモ日本カ此ノ留保ニ依リ何ノ程度ノ權利ヲ確保シ得ルカハ後述ノ通リ事實上疑問ナリ

(ハ)故ニ右モ事務局トシテハ双方ノ爲ニ歓迎シ得ス殊ニ今急ニ斯ル方法ヲ執ラストモ日本ノ地位ハ當分變更ノ惧無キハ次ノ通リナリ

(三)阿片關係各種委員會ニ付テノ日本ノ現地位ハ[2]

(イ)諮問委員會構成ニ關シテハ一九二〇年十二月十五日總會決議ニ依リ日本ノ現地位ハ完全ニ確保セラレ此ノ地位ハ聯盟脱退後モ何等變更無シ何トナレハ今後總會自身此ノ決議ヲ變更シ日本ヲ除外スル如キコト到底想像シ得ス

(ロ)中央委員會ニ付テハ客年日本委員ノ再選ヲ見タレハ爾後少クモ五年間其ノ地位ヲ保留セラレ居ルノミナラス同委員會構成ハ一九二五年壽府條約ニ依ルヲ以テ假令聯盟カ如何ニ日本ノ現地位確保ヲ希望ストスルモ日本(ニ)ノミ斯ル特殊ノ權利ヲ附與スルハ同條約ヲ變更セサル限リ不可能ニシテ單ニ理事會決議又ハ批准ニ伴フ日本ノ留保ノミヲ以テシテハ之ヲ實現シ得サルヘシ

(ハ)監督機關ハ條約指定ノ四機關ヨリ各委員ヲ選出シ居リ且此ノ各機關ニハ現ニ日本委員參加シ居レリ即チ右ノ二委員會ノ外公衆衛生事務局ニハ當該條約ニ依リ日本委員參加シ居リ又保健委員會ニモ向フ三年日本委員參加ノコトトナリ居ル故實際上同機關ニ於ケル日本ノ現地位ハ當分變更ノ惧無ク又

同[3]委員會ノ構成ハ稍複雑ナルモ凡テ聯盟專門機關ノ構成ハ一九二一年九月二十三日總會決議ニ依リ原則トシテ總會ノ權限ニ屬シ居ルヲ以テ單ニ理事會ノ決議又ハ日本ノ留保ノミニ依リ同委員會ノ構成及任命ノ手續ヲ變更スルコト不可能ナリ

(四)中央及保險(健カ)委員會ノ構成ニ關スル日本ノ事實上ノ地位ヲ將來法律的ニ確保スルコトハ條約ノ變更又ハ總會ノ決議ヲ

以テセサレハ不可能ナルコト右ノ通ナルカ尚一般的問題トシテ既存機關ニ對シ日本ノ現地位ヲ確保スルコト殊ニ理事會ニ於ケル委員任命ニ際シ表決權ヲ日本ニ確保スルコトカ日本今回ノ留保ニ伴フ法律上ノ效果ナリトハ何人モ首肯シ難キ處ナリ此ノ點ハ聯盟側ニ於テモ特ニ注意ヲ拂ヒタリ

(五)以上ノ通日本政府ノ原案モ理事會決議ニ依ルノ對案モ遺憾乍ラ彼我双方ノ目的達成上滿足ナル方法ト認メ得ス就テハ右ニ代フルニ日本政府ノ一方的宣言ニ依リ事務局及理事會ニ對シ將來心?的義務ヲ負ハシムルノ方法ニテ滿足セラレ難キヤ一應政府ニ請訓セラレ度其上ニテ尚政府カ原案ヲ固執セラルレハ事務局トシテハ御希望通リ取計フニ何等異議アル譯ニアラス唯問題ノ重要性及上述ノ諸事情ニ鑑ミ自分等ノ責任上此ノ際枉ケテ御再考ヲ煩ハス次第ナルニ付此ノ點誤解無キ様傳達ヲ請フ

11　昭和9年1月16日　在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事より広田外務大臣宛(電報)

麻薬製造制限条約の我が方留保に関し意見具申

ジュネーヴ　1月16日後発
本　　省　　1月17日前着

第一二號

往電第一一號ニ關シ

阿片部長ノ外「マキノンウッド」ハ法律的見地ヨリ又事務總長ハ事務局側ノ誠意ニ關シ夫々懇說セルカ本官ノ印象ニ依レハ事務局トシテハ阿片關係諸條約ノ實施ニ付テハ勿論其他一般平和事業ノ遂行ニ付本邦ノ協力ヲ重視シ從テ各種委員會ニ於ケル本邦ノ現地位確保ニ付充分注意シ居ル如ク事務局及之等事業ニ利害關係ヲ有スル理事國ノ大部分ハ今後モ此ノ方針ニ忠實ナルヘシト確信セラルル處我方留保批准ハ事實上何等利益無キ諸小國ニ迄關與ノ機會又ハ口實ヲ與フルコトトナリ豫想外ノ不結果ヲ招來スル虞有リ又其法律上ノ效果ニ付テモ疑アルコト既電ノ通リニシテ結局我方折角ノ目的ヲ達成シ得サル危險アリ就テハ樞密院トノ御交渉ノ經(緯)ハ充分了承致シ居ルモ今一應御研究相煩シ度ク卑見ニ依レハ客年倫敦全權宛貴電第三一號御來示ノ我方宣言案ニ加フルニ「日本ハ今回此ノ確信ニ基キ批准ヲ了セル次第ナルモ將來前顯各委員會ニ於ケル日本ノ現地位カ變更

ヲ受ケ其結果聯盟トノ協力ヲ持續シ得スト斷定スル場合ニハ條約廢棄ノ手續ヲ採ルコトアルヘキ旨ヲ茲ニ宣言ス」ト云フ如キ趣旨ヲ以テセラレ御批准書寄託ト同時ニ事務總長ニ通報シ同總長ヲ經テ理事會ヲシテ之ヲ「テイクノウト」セシメラルルコトトセハ將來各種委員會ノ構成變更又ハ委員選任ニ際シ事務局及理事會ハ我方ニ對シ一種ノ道德的義務ヲ負フコトトナリ種々ノ無理ヲ含ム法律的手段ニ依ルヨリモ一層效果的ナラント存セラル

12　昭和9年1月18日　在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事より広田外務大臣宛(電報)

満州国へのアヘン輸出に関する連盟理事会へのアヘン諮問委員会報告案に対し中国側修正要求について

ジュネーヴ　1月18日後発
本　　省　　1月19日前着

第一九號

往電第一八號草間カ阿片部ヨリ内密ニ聞込ミタル處ニ依レハ支那側ハ右往電ノ修正ヲ以テ滿足セス更ニ理事會席上左ノ二個ノ追加修正ヲ爲スヘク準備中ノ由不取敢

一、報告原案中「生產並ニ製造國政府ニ對シ痲藥ノ同地方ヘノ輸出ニ關シ嚴重ナル監督ヲ爲サシムル樣注意ヲ喚起スヘシ」トノ一節ニ續キ「現行條約ニ基キ支那ノ地域全般ニ對シ阿片及煙膏ノ輸出ヲ許可セサルト同樣地方ニ對シテモ之カ輸出許可ヲ與ヘサルモノトス」ト追加セントス

二、報告原案中「理事會トシテハ日支紛爭諮問委員會ノ滿洲仕向ケ阿片ノ輸出ニ關スル勸告ハ毫モ諸國ノ阿片條約義務ヲ變改スルモノニアラサル次第ヲ指摘スルコトヲ要スヘシ」トアル次ニ「右宣言ノ必然的歸結トシテ諸國ノ條約義務履行ハ客年二月二十四日臨時總會決議ニ依ル滿洲國不承認ノ原則ニ直接ニモ間接ニモ抵觸セサル方法ニ依リ爲サルヘシトノ結論ヲ生スヘク更ニ又日支紛爭諮問委員會ノ六月七日ノ勸告ハ直接ニモ間接ニモ前記原則ニ抵觸スルカ如ク解釋セラルルコトヲ得サルモノナリ」ト追加セントス

在歐各大使(除土)ニ暗送セリ

13　昭和9年1月18日　在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事より広田外務大臣宛（電報）

満州国へのアヘン輸出に関する連盟理事会への報告案に対する中国側修正案に関しアヘン部長に注意喚起について

ジュネーヴ　1月18日後発
本　省　1月18日後着

第二〇號

往電第一九號支那修正案ニ關シテハ我方トシテ理事會討議ニ直接關與シ得サルハ勿論關係代表部等ニ對シ内交渉ヲ試ミル如キコトモ面白カラスト思考セルニ付十七日不取敢阿片部長ニ對シ「日支紛爭諮問委員會カ既ニ決定セル事項以上ニ理事會カ新ニ斯ル提議ヲ採用スルハ穏當ナラス右ニ關シテハ阿片諮問委員會ニ於テモ熟慮セル通リ本件提案ノ如キハ徒ニ關係國ノ反感ヲ買フニ止リ其協力ヲ得ル途ニ非サルヘシ」ト述ヘ其ノ注意ヲ喚起シタル處同部長ハ全然同感ニテ「自分ハ昨日ヨリ之カ撤回方ヲ强調シ居リ今夕モ之ニ關スル非公式會合ニテ同様ノ主張ヲ試ミル積リナルカ若シ支那カ自説ヲ固持セハ法律的見地ヨリ右提議カ理事會ノ權限外ナリト論シ之ニテモ承知セサレハ或ハ日支紛爭諮問委員會附託トシテ理事會ノ討議ヲ打切ルコト然ルヘシト論スル意響ナリ」ト應答セリ

在歐洲各大使（除土）ニ暗送セリ

14　昭和9年1月19日　広田外務大臣より在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事宛（電報）

枢密院側の意図に鑑み麻薬製造制限条約宣言付批准とする場合の連盟事務局側意見聴取方訓令

別　電　一月十九日発広田外務大臣より在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事宛第八号

右宣言案

本　省　1月19日後4時発

第七號

貴電第一二號ニ關シ

樞密院側ハ本件留保ニ依リ關係諸委員會中現在我方委員ノ占メ居レル位地ヲ其ノ儘確保セント云フヨリモ寧ロ形式的ニ其ノ構成及任命ニ對シ將來ニ於ケル發言權ヲ確保セントスルニ在リ實ハ當方ニ於テモ最初倫敦經濟會議全權宛往電第三一號ノ如キ案ヲ主張シタルモ樞密院側カ之ニ滿足セサリシコト同電ヲ以テ申進メタル通ニテ同院ハ飽迄客年往電第九號ノ如キ宣言案ヲ固持シ居ル次第ナリ右宣言案ニ關シテハ政府ニ於テモ貴電第一一號ヲ以テ御申越ノ如キ諸點ヲ十分説明シタルニ拘ラス樞府側ハ同案ニシテ承認セラレサルニ於テハ本件條約ヲ批准セサルモ亦已ムヲ得ス又理事會ノ決議等ニテハ何時變更セラルルヤ測リ難キヲ以テ前記ノ如キ發言權ヲ留保シ置キタシトノ希望ニシテ右ハ聯盟乃至關係諸國カ阿片問題ニ關スル我方ノ地位ニ鑑ミ我協力ヲ必要トスル以上自ラ進ンテ我方ノ地位ニ相當スル權利ヲモ認ムルカ當然ナリトノ見地ニ出ツルモノナリ

右ノ如キ次第ナルカ故ニ樞府側ノ意響ヨリスレハ客年往電第九號ノ方針ヲ以テ進ムノ外ナキ筋合ナルモ聯盟事務局側ニ於テモ誠意ヲ以テ我方要求ヲ考慮中ナル關係モアリ場合ニ依リテハ他ノ方法ヲ以テシ度シトモ考ヘ居ル次第ナル處假ニ客年往電第一〇號宣言ヲ豫メ他國ノ承認ヲ經ルコトナク當方限リニテ爲シ右宣言ヲ存シテ批准スル旨ノ別電第八號ノ通ノ御批准文附批准書ヲ寄託スル場合ハ（此ノ場合客年往電第一一號ノ書翰ヲ事務局ヨリ撤回スヘキハ勿論ナリ）事務局側ノ之ニ對スル意見乃至取扱振如何ナルヘキヤ事務局ハ之ヲ留保附批准ト看做スヘキヤ又ハ單純ナル批准トシテ取扱フヤ從テ之ヲ關係各國ニ移牒ノ場合モ其ノ儘傳達スヘキヤ又留保附批准トシテ之ニ關スル各國ノ意見ヲ照會スルカ如キ措置ヲ執ルヘキヤ承知シ度キニ付前顯ノ事情ヲ篤ト説明セラレ右ノ如キ場合ニ對スル事務局ノ意響御問合ノ上回電アリ度シ尚假ニ事務局側ニ於テ我方ノ宣言附批准ヲ留保ヲ附セルモノト看做ササル場合ト雖モ樞密院側カ果シテ斯カル方法ヲ承認スヘキヤ否ヤハ更ニ同院ト交渉ノ上ナラテハ明ナラサルニ付右御含ミ迄ニ申添フ

（別　電）

本　省　1月19日後5時20分発

第八號

Having examined the Convention for Limiting the Manufacture and Regulating the Distribution of Narcotic Drugs, which was signed at Geneva on the thirteenth of July, in the sixth year of Showa by the Japanese Plenipotentiary and by the Plenipotentiaries of other

Contracting Parties, and concerning which the Japanese Government made a declaration on the year of Showa, We approve, accept and ratify the same, subject to the declaration so made as aforesaid by the Japanese Government.

15 昭和9年1月19日　在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事より広田外務大臣宛（電報）

満州国へのアヘン輸出に関する連盟アヘン諮問委員会報告案の理事会などにおける審議状況につきアヘン部長の内話について

ジュネーヴ　1月19日後発
本　　省　1月20日前着

第二三號

往電第一九號ニ關シ
其後ノ經過左ノ通
一、十八日朝阿片部長ヲ訪問セルニ昨夜ノ非公式交渉ニ於テ(イ)支那提案ノ第一點ニ付テハ滿洲國不承認ノ立場ヨリスレハ採擇ヲ當然トスヘシトノ説有力ニテ殊ニ報告者(波蘭外相)ハ第二點削除ノ對照トシテ第一點採用ヲ「コンミツト」セル模樣ナリシカ自分ハ極力反對シ日支紛爭總會委員會ノ勸告ヲ理事會カ變更スル如キハ權限外ノ行爲ニシテ手續上缺點アリ且ツ前者ニハ支那ノ參加無キニ後者ニハ其ノ理事缺席セル關係ヨリ見ルモ不都合ナリト述ヘ未タ妥結ニ達セサリシカ(ロ)第二點ニ付テハ此ノ種技術的問題ニ關聯シテ再ヒ斯ル政治的事項ニ言及スルハ面白カラストノ説多數ナリシ故削除ノ見込充分ナリト内話セルニ付本官ハ其ノ勞ヲ謝シ且ツ支那案通過セハ今後我方ノ協力ハ困難ナルヘキ旨ヲ繰返シ置キタリ
二、同日午後理事會非公開會議ニ於テ議長(波蘭外相)ハ本件報告ハ滿場一致ヲ以テ採擇ヲ見得ル樣今尚盡力中ナルカ其ノ審議ヲ更ニ延期スト述ヘタリ
三、同日午後八時阿片部長ヨリ左ノ通リ内報アリタリ
支那側モ遂ニ第二點削除ニ同意シ且ツ第一點ニ付テハ總會委員會勸告第七項(滿洲國ニ對スル阿片、痲藥類輸出制限方)ニ關スル諮問委員會ノ見解ヲ是認セル文句ヲ全部除去ノ上單ニ「一九一二年海牙條約第三條、八條及一五條ノ規定ニ從ヒ該地域ニ對スル阿片(生及烟膏)ノ輸出ニ付之ヲ許

可シ得サルモノナリト了解ス」トノ文句ヲ入ルル事トシ只今漸ク妥結ニ達セリ依テ本件報告ハ二十日ノ理事會ニテ右修正通リ採決ヲ見ルヘキ處(席上支那理事ヨリ或ハ第二點ノ趣旨陳述スルヤモ知レサルモ之迄止メル譯ニハ行カス)右ナラハ毫モ直接ニ滿洲國不承認問題ニ觸レ居ラサル故是ニテ御滿足ヲ請フ
四、尚阿片部長ハ十七日事務總長ニ對シ支那カ第一點ヲ固執セハ日支紛爭委員會ニ移牒ノ外無シト述ヘタルニ同總長ハ同委員會ハ尠クトモ本年中ニハ之ヲ開催セサルコトト致度シト斷言セル由ナリ
在歐各大使ニ暗送セリ

16 昭和9年1月24日　在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事より広田外務大臣宛（電報）

我が方連盟脱退確定後の連盟との関係につき同事務局連絡委員会主任の内話について

ジュネーヴ　1月24日後発
本　　省　1月25日前発

第二九號

「コメイル」[1]辭職以來聯盟事務局情報部長事務取扱タリシ「スウイツア」(米人)ハ今般「ペルト」同部長新任ノ機會ニ新設機關タルLiaison Committee(事務總長、副總長ノ外一、二部長ヨリナリ事務局ト聯盟國及非聯盟國特ニ米、露並各種國際機關トノ聯絡、各支局ノ監督等ヲ任務トスル)ノ主任(部長待遇)ニ就任シタルカ二十二日同人ハ原田ニ對シ聯盟側ニ於テハ何人モ等シク來春ニ於ケル日本ノ脱退完了ヲ遺憾トシ居リ何トカ之カ防止策無キヤニ付焦慮シ居ル次第ナルカ差當リ其ノ後ニ於ケル日本トノ關係ニ付近頃種種攻究中ナリト前提シ大要左ノ通リ内話シタル趣ナリ
一、規約第一條第三項「一切ノ國際上及本規約上ノ義務」云々ニ關シ聯盟側ノ一部ニ於テハ滿洲問題ニ關シ日本ノ義務不履行ヲ考慮スル向アランモ今更敢テ之ヲ切出スモノアラントハ思ハレス結局分擔金支拂ノミカ問題トナリ得ヘシト解セラル
二、委任統治地域ノ歸趨ニ付テハ法理上種々ノ議論立チ得ルモ要ハ政治的解決ニ待ツノ外無ク本件ニ關シ米國政府ノ態度ハ相當注意ヲ要スル處(「イラク」問題ニ關スル同國政府通告參照)同政府トシテモ既ニ意見ノ確定シ居ル

譯ニ非ス日本側ニ於テ事ヲ荒立テサル限リ各國ハ本件ヲ有耶無耶ニ葬リ去ラントスルニ非スヤト思ハル之ニ反シ日本側ニ於テ挑發的態度ニ出ツル時ハ各國ハ却テ猜疑ノ念ヲ起シ沈默ヲ守リ得サルニ至ルノ惧無シトセス

三、[2]脱退後各種委員會ニ日本委員ヲ存置スルコトハ左迄困難ナカルヘシ尤モ聯盟側(例ヘハ理事會)ニ於テ之ニ關シ何等聲明ヲ爲スカ如キハ困難ナランモ日本側ニ於テ脱退完了ノ際新タニ其ノ協力方針ニ關シ聲明又ハ通告ヲセラルルニ於テハ實行上聯盟ノ立場ハ樂ニナルヘシ

四、聯盟トノ協力程度ニ依リ日本側ニ於テ自發的ニ經費ヲ寄附セラルレハ聯盟ハ大ニ「アプレシエト」スヘシ米國政府ニ於テハ現ニ毎年少額ヲ分擔シ居リ國務省ニテハ之ヲ少額ニ過クト爲シ(先般同國大統領ト面會ノ際モ同樣ノ話アリタリ)今後ハ同國カ締約國タル國際條約ノ實施ニ當ル各種委員會(例ヘハ阿片中央婦人兒童等)ノ經費ヲモ分擔シ度シトノ申出アリ事務局ニテ目下調査中ナリ

五、米國政府ハ從來正式ニ條約ノ登録ヲ爲サス單ニ公表ノ目的ヲ以テ情報トシテ一切ノ條約ヲ事務局ニ通報シ來レルカ今般正式ニ登録シ度旨ノ申出アリ目下手續中ナルカ費用分擔方法トシテハ條約集(一語脱)ヲ豫約シ之ヲ在外公館ニ配シ居レリ

六、自分就任以來各支局存廢ノ問題ニ付折角考究中ナルカ(伯林支局ハ四月末廢止ニ內定)聯盟幹部ノ間ニハ各支局ヲ廢シ其ノ費用ヲ以テ數十ケ國(特ニ華府、莫斯科及東京)ニ「コレスポンデント」ヲ設置スヘシトノ議有力トナリツツアリ

米ヘ轉電シ在歐各大使(土ヲ除ク)ヘ暗送セリ

17　昭和9年2月5日　在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事より来栖(三郎)通商局長宛

国際労働機関事務局次長訪日に際し我が国産業界の実情を理解せしめるため便宜供与方同局鮎沢事務官より要請について

昭和九年二月五日

在壽府

國際會議帝國事務局長代理　横山　正幸

通商局長　來栖　三郎殿

拜啓時下益々御清穆ノ段奉賀候陳者國際勞働事務局次長「モレット」氏渡日ノ件ニ關シテハ先般電報ヲ以テ簡單乍ラ申進置キタル次第有之候處今般國際勞働事務局鮎澤事務官ヨリ別添寫ノ通リ小生宛詳細申越有之タルニ付右何等御參考迄茲ニ及送付候條委細右ニ依リ御知悉願上候申ス迄モ無ク本邦商品ノ海外進出カ漸次世界的注目ノ的トナリツツアル此際「モレット」氏ノ如キ地位ニ在ル人物ヲシテ本邦ノ產業界ノ實情ヲ理解セシメ且通商問題ニ關スル帝國政府ノ政策ノ本旨ヲ徹底セシムルハ本問題將來ノ對策上極メテ有意義ノコトト被存候就而御如才モナキコト乍ラ同氏渡日ノ上ハ關係各方面トモ御協議ノ上宜敷御引廻ノ程相煩度此段得貴意候

敬具

(別　添)

昭和九年一月三十日

國際勞働事務局　鮎澤　巖

橫山總領事殿

前略、、、、

「フェルナン、モーレット」氏ハ一八七九年巴里生レノ生粋ノ佛蘭西人ニテ「エコール、ノルマル、シュペリオール」ニ於テ歴史及地理ヲ専攻致シ同校卒業以後約二十有余年間經濟地理ヲ「エコール、ノルマル、シュペリオール」「エコール、デ、ゾート、エチュード、コムメルシアール」等ノ大學若クハ専門高等ノ諸學校ニ於テ講義シ其ノ間ニ夥多ノ地理書ノ著述アリ一九二四年ニハ米國「ファイリーン」氏提供ノ平和賞ヲ捷チ獲タルコトアリ同年十月ヨリハ國際勞働事務局前局長故「アルベール、トーマ」氏ノ招請ニ應シテ勞働局調査部長トシテ壽府ニ赴任シ爾後同地位ニ在ルコト十年而シテ其ノ間常ニ國際聯盟國際智的協力委員會ニ國際勞働局代表トシテ列席セリ一九三三年十月局組織變更ト共ニ國際勞働局次長ニ任シ爾來其ノ地位ニ在リ國際勞働局ノ調査刊行ニ就テハ殆ント總テ氏ノ統帥ニ俟チ居ルト申シテ差支ナカル可ク候

昨年來國際智的協力協會事務總長「ボンネ」氏ヨリノ依頼ニ依リ支那政府ノ招請ニ應シ支那ニ於ケル小學、中學及技術教育制度確立ノ爲ニ「アドヴァイス」ヲ致ス可キ目的ヲ以テ今年二月十五日「イタリア」「ブリンデッシ」港ヲ發シ支那ニ赴クコトト相成リ上海ニハ三月十日着、支那ニ於ケル用務ハ約三週間ヲ以テ完了ノ見込ミナル處國際勞働局

長「バトラー」氏ハ勞働局最高幹部ノ一人カ支那ニ遙々赴クニ際シテ東洋ニ於ケル猶ホ一ノ大國ニシテ國際勞働機關ノ重要ナル締盟國タリ且ハ世界主要産業國ノ一タル日本ヲモ同時ニ訪ルルハ最モ當然ニシテ且又必要ナルコトナリト致シ「モーレット」氏ニ對シ特ニ國際勞働局ヨリノ「ミッション」トシテ日本ニ赴クコトヲ任命致シタル處日本政府ハ國際勞働理事會ニ於ケル帝國政府代表吉坂俊藏氏ヲ通シテ日本ノ當局ハ「モ」氏ノ來朝ヲ歡迎スヘキ旨ヲ告ケ愈々「モ」氏ノ訪日ノ實現ヲ確實化致シタル次第ニ御座候

從ツテ「モ」氏ノ來朝ノ動機カ右ノ事情ニ基クモノナルヲ以テ訪日ノ主要目的ハ國際勞働機關ノ重要ナル締盟國タル日本ニ對シ敬意ヲ表シ新局長ノ挨拶ヲ齎スト云フコトニ存スルモ尚同時ニ局長及「モ」氏ニ於テハ日本カ最近飛躍的ニ發展ヲ遂ケ殊ニ産業カ異常ノ進歩ヲ爲シテ世界ノ驚嘆ヲ博セルコトニ鑑ミ折角訪日ノ機會ヲ能フ限リ利用シテ日本ノ産業發展ノ實際ヲ現地ニ於テ具サニ視察シ成ル正ク正鵠ヲ得タル充分ノ認識ヲ收得シ度シトノ希望ヲ有シ居リ候此點ハ既ニ内務省社會局トハ吉坂代表ヲ通シ相當ノ諒解ハ得居ルモ尚今後産業當事者其他ノ關係ノ公私ノ方面ニ十二分ノ理解ヲ以テ協力ヲ與ヘラレ度ク冀望致居リ候

御存知ノ通リ最近「アジア」歐洲阿弗利加等各地ニ於テ日本カ恰モ不當ナル手段或ハ特ニ劣惡ナル勞働條件ノ維持ニ依リ不正競爭ヲ爲シ居ルカノ如キ非難喧々囂々タル有樣ナル時國際勞働會議ニ於テ此ノ問題カ論議セラルルコトハ防遏甚タ困難ナルヘク來ル六月ノ總會等ニ於テハ恐ラクハ最モ八釜シキ問題ト相成ルカト存セラレ候此ノ秋ニ當リ國際勞働局ノ幹部カ日本ノ現狀ニ關シ深キ理解ト充分ナル認識トヲ有シ居ルコトハ彼我相互ノ爲ニ必要缺クヘカラサル次第ト申ス可ク旁々右事情篤ト御含ミ被下何卒然ル可ク外務當局等ヘモ御情報ヲ煩ハシ度ク懇願致候

「モ」氏訪日ノ日程ハ目下ノ見込ミニテハ四月二日頃上海發四日頃神戸着、日本ニハ約三週間滯在ノ後米國經由ニテ五月末迄ニ歸壽ノ豫定ニ有之候

右甚タ勝手ナル御願ヲ兼ネ要領御報告申上候　　匆々敬具

18　昭和9年2月15日　在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事より広田外務大臣宛（電報）

我が方麻薬製造制限条約への宣言付批准は留保付批准と見なさざるを得ない旨の連盟事務局アヘン部長の回答について

ジュネーヴ　2月15日後発
本　省　2月16日前着

第四六號

往電第三四號ニ關シ

部長ヨリ十三日大要左ノ通回答アリ

一、御批准書末段ニ subject to 云々トアル場合ハ事務局トシテハ留保附批准ト看做ササルヲ得ス卽チ日本側ヨリ特ニ反對説明ナキ限リ將來日本ノ現地位ニ變更ヲ來ス場合ニハ該條約第三二條ト關係ナク日本ハ同條約ノ義務ヲ解除セラルルニ至ルモノト解スルノ外ナシ從テ一九二七年六月十七日理事會採擇ノ國際法典編纂委員會決議（C三五七・M一三〇・一九二七）ニ基キ之ヲ處理スルヲ要ス

二、依テ事務局ハ右批准ヲ各締約國ニ通報ノ際右留保ニ對スル注意ヲ喚起シ之カ受諾ヲ求ムヘシ右通報ニハ何等解釋及意見ヲ附セサルモ日本側宣言中ニ指定シアル日本ノ現地位ニ關シ必要ナル説明（往電第一一號㈡）ヲ附記スヘシ

三、右ノ留保ニ對スル締約國全部ノ同意ヲ經サル限リ御批准自体ノ效力發生セサルニ依リ各國カ之ヲ承認スル迄日本ハ締約國ト認メラレサル不便アリ又右留保ハ條約内容ト無關係ナル聯盟ニ於ケル日本ノ現地位ヲ確保スルノ目的ニ出テ全ク異例ノ性質ヲ帶フルモノナリ

然モ日本ノ現地位ノ存續ハ實際上聯盟當該諸機關ニ於テ之ヲ決定シ得ヘキカ故ニ締約國間ノ決定ニヨリ直ニ右目的ヲ達シ得ヘキヤ法律上疑ナキ能ハス

而ノミナラス右留保ノ結果トシテ諸締約國ニ對スル同意ヲ求ムル以上其同意ナキ間ハ聯盟當該諸機關ニ於テ日本側ニ滿足ヲ與フヘキ何等ノ措置ヲモ取リ得サルヤノ疑ヲ生シ理論上頗ル渾沌タル事態ヲ招來スル虞アルヘシ

四、以上ハ否定的回答ニアラス日本側提案研究ノ結果生シタル疑義ヲ列擧セルニ過キス

19　昭和9年3月2日　広田外務大臣より在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事宛（電報）

麻薬製造制限条約への我が方留保宣言につき各国の同意取付け後批准奏請の意向につき連盟事務局へ説明方訓令

本　省　3月2日後8時10分発

第三五號

貴電第四七號ニ關シ

往電第七號等ニテ御承知ノ通樞密院側ハ關係諸委員會ノ構成及委員ノ任命ニ參與スルノ權利ヲ麻藥條約締約國ノ關スル限リニ於テ形式的ニ確保セントスルモノニシテ我方委員カ實際選出セラルヘキヤ否ヤハ深ク問題トスルモノニ非ス此ノ點聯盟事務局側ノ見解ト頗ル異レリ當方ニ於テモ屢次御申越ノ如キ諸點ハ夙ニ十分考慮シ一方的宣言案ニ依ルノ實際的ナルヲ指摘シテ樞密院側説得ニ力メタルモ同院側ノ意嚮ハ飽迄前顯形式的權利ヲ留保セントスルニ在リ政府トシテハ凡ユル手段ヲ盡シ迂余曲折ヲ經タル後客年往電第九號乃至第一一號ノ如キ案ニ到達セル次第ナリ仍テ聯盟事務局側ニ於テ右往電ノ宣言ヲ以テ留保ト見做サス之ヲ其ノ儘關係各國ニ移牒スルノ方法ニテモアラハ豫メ關係國ノ承認ヲ求ムルノ方法ニ依ラス今直ニ御批准ヲ得ルノ手續ヲ執ルコト然ルヘキカト考ヘタル次第ナルモ是亦不可能トナリタル今日ニ於テハ前記往電ノ如キ既定方針ニテ進ムノ外ナキ次第ナリ就テハ右ノ事情御含ミノ上往電第二號末段ノ通我方ヨリ嘆願的態度ニ出ツルコトナク適宜聯盟事務局側ヘモ説明セラレ本件進行方然ルヘク御取計相成度ク唯第一一號「カヴァリング、ノート」ニ示セル回答期限ハ本年十二月末日トセラレタシ(尤モ右「ノート」自体ノ日付ハ旧通(モト)トシ置カレタシ)

〰〰〰〰〰〰〰〰

20　昭和9年3月16日　広田外務大臣より在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事宛(電報)

輸出入禁止制限撤廃条約および関税休戦決議よりの脱退につき連盟事務総長へ通告方訓令

別電一　三月十六日発広田外務大臣より在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事宛第四一号
右輸出入禁止制限撤廃条約の義務免除宣言

二　三月十六日発広田外務大臣より在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事宛第四二号
右関税休戦決議からの脱退通告

付記一　二月十九日付広田外務大臣より斎藤(実)内閣総理大臣宛公信通一機密第九一号
関税休戦決議からの脱退につき閣議請議

二　二月十九日付広田外務大臣より斎藤内閣総理大臣宛公信通一機密第九二号
輸出入禁止制限撤廃条約の義務免除につき閣議請議

三　三月十四日付斎藤内閣総理大臣より広田外務大臣宛公信内閣外甲第一六号
関税休戦決議からの脱退につき閣議決定

四　三月十四日付斎藤内閣総理大臣より広田外務大臣宛公信内閣外甲第一七号
輸出入禁止制限撤廃条約の義務免除につき閣議決定

本　省　3月16日後6時40分発

第四〇號

帝國政府ハ今般輸出入ノ禁止制限撤廢條約及右關係條約ノ義務免除ニ關スル宣言ヲ爲シ又關税休戰決議ヨリ脱退スルコトニ決シタリ就テハ貴官ハ別電第四一號及第四二號ノ案文ニ依リ聯盟事務總長ニ對シ右通告方取計ハレタシ尚通告濟ノ上ハ其ノ旨日附ト共ニ電報アリタシ

(別電一)

本　省　3月16日後6時40分発

第四一號

Sir,

I have the honour, under instructions from my Government, to forward to you the following declaration of the Japanese Government:-

In accordance with paragraph 6 of the Protocol signed at Paris on December 20th, 1929, concerning the entry into force of the International Convention of November 8th, 1927, for the Abolition of Import and Export Prohibitions and Restrictions and of the Supplementary Agreement to the said Convention of July 11th, 1928, the Japanese Government hereby declare that they are relieved, as from June 30th, 1934, of the obligations of the International Convention of November 8th, 1927, for the Aboli-

tion of Import and Export Prohibitions and Restrictions and of the Supplementary Agreement to the said Convention of July 11th, 1928, which they accepted in virtue of the above-mentioned Protocol.

I avail myself of this occasion to renew to you, Sir, the assurance of my highest consideration.

（別電二）

本　省　3月16日後7時50分発

第四二號

Sir,

I have the honour, under instructions from my Government, to communicate to you the following:-

The Japanese Government accorded on June 28th, 1933, approval to the Resolution which was adopted by the Governments represented on the Organizing Committee for the Monetary and Economic Conference, and accepted ad referendum by the Japanese Representative on May 12th, 1933. Since then the Japanese Government have acted in accordance with the letter and spirit of the said Resolution.

In view of the fact that the Monetary and Economic Conference adjourned sine die and in view of the fact that the Resolution became of no practical value because of denunciation of, or of additional reservations of considerable extent and importance to, the Resolution made by numerous countries, the Japanese Government have decided to resume their freedom of action to safeguard their national interests and hereby give notice of their withdrawal from the Resolution one month from the date of this notice.

I avail myself of this occasion to renew to you, Sir, the assurance of my highest consideration.

（付記一）

通一機密第九一號

昭和九年二月十九日

外務大臣　廣田　弘毅

内閣總理大臣子爵　齋藤　實殿

「貨幣及經濟會議ノ爲ノ組織委員會ニ代表者ヲ出セル諸政府ニ依リ千九百三十三年五月十二日採擇セラレタル決議」脱退ノ件

帝國ハ内外ノ情勢ニ鑑ミ此ノ際「貨幣及經濟會議ノ爲ノ組織委員會ニ代表者ヲ出セル諸政府ニ依リ千九百三十三年五月十二日採擇セラレタル決議」ヨリ脱退スルコトトシ右ノ趣國際聯盟事務總長ニ對シ通告スルコト適當ト被認候ニ付テハ右閣議決定相成度別紙説明書相添ヘ此段申進候也

（別　紙）

「貨幣及經濟會議ノ爲ノ組織委員會ニ代表者ヲ出セル諸政府ニ依リ千九百三十三年五月十二日採擇セラレタル決議」脱退ニ關スル説明書

昭和八年五月十二日貨幣及經濟會議ノ爲ノ組織委員會ニ代表者ヲ出セル諸政府ニ依リ貨幣及經濟會議ノ開催前竝ニ繼續中「現在國際通商ヲ阻害シ居ル諸種ノ困難ヲ增加セシムルコトアルヘキ如何ナル發意的措置ヲモ執ラサルヘキコト」ヲ約スル決議(以下關税休戰決議ト記ス)採擇セラレタルカ其ノ際本邦代表ハ政府ノ承認ヲ條件トシテ右決議ヲ受諾スヘキ旨ヲ聲明シ其ノ後帝國政府ハ愼重審議ノ上其ノ必要ト認ムル留保ヲ附シタル上正式ニ同決議ニ參加スルコトヲ決定シ昭和八年六月二十八日右留保ヲ附シ之ニ加入シタリ

然ルニ貨幣經濟會議ハ何等ノ成果ヲモ收メスシテ休會シ其ノ後各國ノ通商政策ハ益々國家主義ノ傾向ヲ增大シ同會議ハ休會トハ稱スルモ近ク其ノ再開ヲ見ルヘキコト期待シ難ク前記決議ハ同會議繼續中ノ故ヲ以テ殆ント無期限ニ延長セラレ本邦ハ脱退ノ手續ヲ執ラサル限リ今後モ引續キ長ク其ノ拘束ヲ免レ難キ情勢ナリ

抑本邦カ右決議ニ參加シタルハ各國ト協力シテ通商障害ノ增加ヲ阻止シ以テ本邦輸出貿易ノ進展ニ資セントスルニアリタル次第ナルカ前記決議ノ受諾ニ當リ各國ハ重大ナル各種ノ留保ヲ附シタルニ止マラス其ノ後更ニ佛蘭西、伊太利、丁抹、「アイスランド」ノ四國ハ留保ヲ追加シテ其ノ實質的拘束力ヲ殆ント無効ナラシメ又「アイルランド」、和蘭、

瑞西、瑞典、英國、白耳義、支那、芬蘭、「リスアニア」、「ニカラグア」、南阿聯邦、伯剌西爾、「エストニア」、「ラトヴィア」、「イラク」、「アルバニア」、及葡萄牙、希臘ノ各國ハ決議ヨリ脱退シ現ニ右決議ヨリ脱退セサル國ニ付テ之ヲ見ルモ決議ノ内容竝ニ其ノ爲シタル留保ヲ頗ル自由ニ解釋シ何レモ右決議ヲ顧慮スルコトナク其ノ欲スルカ儘ニ外國品ニ對シ輸入防遏手段ヲ採用シ殊ニ海外進出ノ顯著ナル本邦品ニ對シテハ其ノ防遏手段採用ノ勢激化シツツアリ本邦ハ同決議ニ參加シ居ルモ之ニ依リ殆ンド何等ノ實益ヲモ享有シ得サルノ狀態ナリ

翻テ本邦ノ今後執ルヘキ方策ヲ考慮スルニ諸外國ノ本邦品ニ對スル壓迫激化シツツアルコト前記ノ通ナルヲ以テ我カ産業及貿易ヲ保護シ其ノ健全ナル發展ヲ計ランカ爲ニハ適當ナル對策ヲ講セサルヘカラス之カ爲政府ニ於テハ目下鋭意具体案ノ作成ニ盡力シツツアリ今期議會ニ右ニ關シ法律案ノ提出ニ至ルヘキヤニ思考セラル然ルニ右措置ハ帝國政府トシテハ關税休戰決議ノ受諾ニ當リ(イ)他ノ政府カ其ノ留保ニ基キ執リタル措置ヲ受諾スルノ義務ヲ負フモノニ非ルコト(ロ)千九百三十三年五月十二日後ニ他ノ政府ノ執リタル本邦貿易ヲ阻害スヘキ一切ノ措置ニ對シ帝國政府ニ於テ防衛ノ爲必要ト認ムル一切ノ措置ヲ執ルノ自由ヲ有スルコト並ニ(ハ)非常且變則ノ場合ニ於テ國ノ緊切ナル利益ヲ保護スル爲必要ト認ムル自由ヲ有スルコトヲ留保シ置キタルヲ以テ右(ロ)及(ハ)ノ留保ニ基キ一應ハ關税休戰決議ニ違反スルコトナシト立論シ得ヘシトハ思考スルモ(ロ)千九百三十三年五月十二日後ニ他ノ政府ノ執リタル措置ニ對スル防衛手段ニ限定シアルヲ以テ同日前ヨリ存シタル法令ニ基キ本邦品ニ對シ防遏手段ヲ採用シタル國ニ對スル關係ニ於テハ之ヲ援用スルコト困難ナルコトアルヘク又(ハ)ハ「非常且變則ノ場合ニ於テ國ノ緊切ナル利益ヲ保護スル爲」ト云フ制限アルヲ以テ其ノ解釋ニ付論議ノ余地アルヘク旁々外國側ヨリ本邦ノ執ラントスル措置ハ前記決議ニ違反スルモノナリト立論シテ抗議ヲ提出スルコトナキヲ保セス就テハ本邦トシテハ此際右決議ヨリ脱退スルノ手續ヲ執ルコトトシ後日生スルコトアルヘキ紛議ヲ未然ニ防止シ置クコト事宜ニ適スト思考セラル或ハ本邦ノ關税休戰決議脱退ハ世界各國ヲシテ本邦ノ通商政策ニ關シ疑惑ヲ生セシメ本邦ノ經濟的國策遂行上障害ヲ來スノ虞ナキヤヲ懸念スルモノアランモ世界各

國ノ態度前記ノ通ナルヲ以テ本邦カ今日ニ於テ本決議ヨリ脱退スルモ諸外國ノ非難ヲ招來シ何等カノ支障ヲ惹起スルカ如キコトハ萬ナカルヘク却ツテ本邦品ニ對シ不當ナル壓迫手段ヲ加ヘツツアル諸國ニ對シ帝國政府ノ決意アル所ヲ知ラシメ本邦ノ立場ヲ尊重セシムルコトトナリ其ノ防遏手段ヲ緩和セシムル爲ノ機運ヲ醸成シ本邦通商貿易ノ發展上有益ナルヘシト思考ス因ニ關税休戰決議ノ脱退ニハ一月ノ豫告ヲ要スルコトトナリ居ルヲ以テ今期議會ニ前記法律案ヲ提出セントスル關係上至急其ノ手續ヲ執ルコト必要ナリ

(付記二)

通一機密第九二號

昭和九年二月十九日

外務大臣　廣田　弘毅

内閣總理大臣子爵　齋藤　實殿

「輸入及輸出ノ禁止及制限ノ撤廢ノ爲ノ千九百二十七年十一月八日ノ國際條約竝ニ同條約ニ對スル千九百二十八年七月十一日ノ補足協定ノ實施ニ關スル議定書」ニ依リ受諾セラレタル義務

解消方宣言ノ件

帝國ハ内外ノ情勢ニ鑑ミ此ノ際「輸入及輸出ノ禁止及制限ノ撤廢ノ爲ノ千九百二十七年十一月八日ノ國際條約竝ニ同條約ニ對スル千九百二十八年七月十一日ノ補足協定ノ實施ニ關スル議定書」ニ依リ受諾セラレタル義務ヲ本年六月三十日ヲ以テ免除セラルベキ旨ノ宣言ヲ國際聯盟事務總長ニ送付スルコト適當ト被認候ニ付テハ右閣議決定相成度別紙説明書相添ヘ此段申進候也

(別　紙)

「輸入及輸出ノ禁止及制限ノ撤廢ノ爲ノ千九百二十七年十一月八日ノ國際條約竝ニ同條約ニ對スル千九百二十八年七月十一日ノ補足協定ノ實施ニ關スル議定書」ニ依リ受諾セラレタル義務

解消方宣言ニ關スル説明書

千九百二十七年十一月八日壽府ニ於テ輸出入禁止制限撤廢ニ關スル國際條約調印セラレ更ニ翌千九百二十八年七月十一日右條約ニ對スル補足協定調印セラレ本邦ハ千九百二十九年九月二十八日右條約ノ批准寄託ヲ了シタルカ批准國ノ

數カ同條約實施ノ爲必要ナル所定ノ數ニ達セサリシヲ以テ關係國政府ハ千九百二十九年十二月二十日巴里ニ於テ右條約ノ實施ノ爲一ノ議定書ヲ締結シ其ノ結果千九百三十年一月一日ヨリ右議定書調印國間ニ於テ之ヲ實施スルコトトナレリ然ルニ右議定書調印國中ニハ「ポーランド」國及「チェッコスロヴァキア」國ノ批准ヲ條件ト爲シタルモノアリ同議定書ハ此等ノ國ニ付テハ右條件ノ滿足ヲ見サル場合ニハ千九百三十年七月一日後拘束力ヲ有セサルヘキコトヲ規定シタル處右條件ノ滿足ヲ見サリシ爲千九百三十年七月一日後其ノ實施アルハ日、英、米、蘭、諾、丁、葡ノ七國トナリ其ノ後翌千九百三十一年ニハ葡萄牙先ツ脱退シ更ニ昨年ニ入リテヨリ他ノ諸國モ相次テ脱退ノ通告ヲ爲シタルヲ以テ現在同條約ノ實施アルハ本邦及和蘭ノ二國ニ過キス而シテ右和蘭モ亦昭和八年九月十一日附ヲ以テ脱退ノ通告ヲ爲シタルニ依リ前記議定書ノ規定ニ基キ本年六月三十日後同條約ノ拘束ヲ受ケサルコトトナルヲ以テ爰ニ同條約ハ何レノ國ニ對シテモ何等ノ拘束力ヲ有セサルモノトナルヘシ然レ共本邦ニ於テ何等ノ措置ヲ執ラサルニ於テハ或ハ帝國ハ依然同條約ノ拘束ヲ受クルモノナルカノ如ク誤解スルモノナキヲ保セサルヲ以テ帝國トシテモ此際前記議定書ニ依リ受諾セラレタル義務ヲ本年六月三十日ヲ以テ免除セラルヘキ旨ノ宣言ヲ國際聯盟事務總長ニ送付シ同日後前記條約ノ拘束ヲ受クルモノニ非サルコトヲ明確ニ爲シ置クコト可然ト思考セラル

因ニ同條約ノ義務ヲ免ルル時期ヲ六月三十日後ト爲シタルハ前記議定書(六)ノ規定ニ依リ義務免除ハ毎年六月三十日ニ限リ之ヲ爲シ得ルモノトナリ居ルニ依ルモノナリ

(付記三)

内閣外甲第**一六**號　　(3月15日接受)

昭和九年三月十四日　　内閣總理大臣子爵　齋藤　實(印)

(欄外記入)

外務大臣　廣田　弘毅殿

指　令

昭和九年二月十九日通一機密第九一號

「貨幣及經濟會議ノ爲ノ組織委員會ニ代表者ヲ出セル諸政府ニ依リ千九百三十三年五月十二日採擇セラレタル決議」脱退ノ件請議ノ通

(欄外記入)

内閣總務課ニ確メタル所本件ハ書面ニ依リ上奏十四日御裁可ヲ經タル趣ナリ(上奏モ十四日)

(付記四)

内閣外甲第**一七**號　　(3月15日接受)

昭和九年三月十四日　　内閣總理大臣子爵　齋藤　實(印)

(欄外記入)

外務大臣　廣田　弘毅殿

指　令

昭和九年二月十九日通一機密第九二號

「輸入及輸出ノ禁止及制限ノ撤廢ノ爲ノ千九百二十七年十一月八日ノ國際條約竝ニ同條約ニ對スル千九百二十八年七月十一日ノ補足協定ノ實施ニ關スル議定書」ニ依リ受諾セラレタル義務解消方宣言ノ件請議ノ通

(欄外記入)

内閣總務課ニ確メタル所本件ハ書面ニ依リ上奏十四日御裁可ヲ經タル趣ナリ(上奏モ十四日)

21　昭和9年3月24日　在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事より広田外務大臣宛(電報)

麻薬製造制限条約への我が方留保宣言に関する各国宛連盟側回章および説明案連盟事務局アヘン部長より内示について

ジュネーヴ　3月24日後発
本　省　3月25日前着

第六八號

往電第六六號ニ關シ

事務局係官起草ノ回章及説明案當方限ノ參考トシテ阿片部長ヨリ内示アリ要領左ノ通

一、回章ニハ痲藥製造制限條約ノ批准ニ際シ日本政府ハ左記ノ留保ヲ附スヘキニ付各國政府ニ於テ右ニ對シ何等異議無キヤヲ遲クモ本年末迄ニ承知シタキ旨ノ要請ニ接シタリトテ我カ留保全文ヲ掲ケ右ニ對シ回答ヲ得度シト記シ次テ右回章ハ各締約國ニ送附シ又右ニ對スル各國ノ回答ハ之ヲ本邦及關係國ヘ通報スヘク又本回章及各回答ノ寫ハ將來締約國トナリ得ヘキ各國ニモ之ヲ送附ス尚右留保中ニ指示セル日本ノ現地位ニ關シテハ説明書ヲ送附スト

記述ス

二、説明書ハ二月十九日附拙信機密本公一〇七附屬書第二頁中段以下一、二、三、A、B、Cノ諸點ヲ極メテ簡單ニ羅列セルモノニ過キス

〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

22 昭和9年4月24日 谷口(明三)内務省社会局労働部事務官より 石川(実)条約局第三課事務官宛

第十八回国際労働総会政府代表に対する訓令について

昭和九年四月二十四日 (接受日不明)

社會局勞働部 谷口 事務官

外務省條約局第三課
石川 事務官殿

先般御話有之候今年ノ第十八回國際勞働總會議題ニ對スル政府ノ態度トシテハ大体別紙寫ノ趣旨ニ依リ行動スル樣政府代表ニ訓令セラルヘキ筈ニ有之候條御參考迄ニ右寫御送付申上候

(別　紙)

一、勞働時間短縮ニ關スル問題

失業緩和ノタメ勞働時間ヲ短縮スルコトハ適當ナリト信ズルモ我國現下ノ實狀ノ下ニ在リテハ失業緩和ニ效果アルガ如キ勞働時間ノ短縮ヲ法規ヲ以テ强制スルコトハ經濟上技術上困難アルノミナラズ此ノ場合ニ於テ賃金ノ維持ヲ法規ニ依リ確保セストスルコトモ實行上困難ナルヲ以テ本問題ニ關シ國際規律ヲ設クルコトニハ今直ニ贊成スルヲ得ズ

二、一國ヨリ他國ヘ移住スル勞働者ノ爲癈疾、老齡及寡婦孤兒保險ニ依リ既ニ取得セル權利及取得ノ中途ニアル權利ヲ保全スルコトニ關スル問題

本邦ニ於テハ未ダ當該保險制度ノ制定ヲ見ザルヲ以テ本問題ニ關シ將來ヲ約束スルコトヲ得ザルモ、各國政府ニ諮問スベキ諸點ヲ決定シ及之ヲ次期總會ノ議題トスルコトニハ異議ナシ

三、勞働者職業病補償ニ關スル條約ノ改正ニ關スル問題

事務局ノ提案ニ係ル改正ノ諸點ニ關シテハ異議ナシ

四、鑛山ニ於ケル婦人ノ地下勞働ニ關スル問題

本問題ノ主旨ハ原則トシテ贊成ナルモ本邦トシテハ簿層又ハ殘炭ヲ採掘スル石炭坑ニ關スル例外ハ今直ニ廢止スルコ

トヲ得ザルニ依リ其ノ旨留意ノ上機宜ノ措置ヲ取ルベシ各國政府ニ諮問スベキ諸點ヲ決定シ及之ヲ次期總會ノ議題トスルコトニハ異議ナシ

五、夜間ニ於ケル婦人使用ニ關スル條約ノ改正ニ關スル問題

改正セラレタル條約案ニ關シテハ之ガ實施ニ付尙諸般ノ事情ヲ考慮スルノ要アルヲ以テ今直ニ批准スルヲ得ザルモ本改正ハ批准ヲ容易ナラシムルモノナルヲ以テ贊成ス

六、自動式板硝子製造業ニ於ケル休息及交替制度ニ關スル問題

本問題ニ付テハソノ根本趣旨ニ於テ反對スル所ナキモ我國ニ於テハ他工業トノ關係其ノ他ノ理由ニ基キ之ヲ實施スルコト困難ナル事情アルヲ以テ之ガ國際規律ヲ設クルコトニ對シテハ今直ニ贊成スルコトヲ得ズ

〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

23 昭和9年4月28日 在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事より 広田外務大臣宛(電報)

米国の国際労働機関加入に関し今次総会に同国代表オブザーヴァー参加につき在ジュネーヴ米国領事内話について

ジュネーヴ 4月28日後発
本　省 4月29日後着

第九二號

米國領事「ギルバート」二十四日別用ニテ本官來訪ノ節本官内密ノ含迄ト前置シテ大要左ノ通リ語レリ

國際勞働事務局長「バトラー」ハ元來同事務局ノ使命ハ専ラ技術的方面ニ在リテ之ヲ貫徹スルニハ廣ク世界各國ノ協力ヲ必要トスルニ付近來兎角不評判ナル聯盟ノ政治的活動ノ側杖ヲ喰フハ面白カラスト爲シ同事務局カ實質的ニ聯盟トハ別個ノ存在ナルコトヲ明白ナラシメント努メ居リ旁日本カ聯盟脱退後モ勞働機關トノ協力ヲ杜絕セサルヲ衷心頗ル喜ヒ居ルト共ニ聯盟ト關係無ク米國ノ參加ヲ促進セントシツツアリ現ニ同局長ハ先年渡米ノ際此ノ問題ニ付大統領ト懇談シタルカ其ノ後米國政府部内ニ於テモ加入贊成意見漸次勢力ヲ得來リ次回勞働總會ニハ「オブザーヴァー」トシテ出來得ル限リ有力ナル代表者ヲ派遣シ輿論ノ指導ヲ容易ナラシメントノ意嚮ヲ抱キ居リ若シ議會閉會後ナラハ勞働大臣「ミス、パーキンス」以下上院、下院各關係委員會議長ヲ含ム各政黨ノ有力者ヲ送ル可ク又議會開會中ナラハ

政治的勢力稍劣ルモ技術的方面ニテ一流ノ權威者ヲ以テ之ニ代ラシム可キ案アリ從來五月ニ開催セル勞働總會ヲ今回六月ニ延期セルハ他ニモ理由ハアレト實ハ米國議會カ其ノ頃迄ニ片着カハト期待シタルニ依レリ孰レニセヨ米國ニテハ技術的立場ニアル勞働機關ヘノ加入ハ政治的意義アル聯盟ヘノ加入ト異リ行政府ノ權限ニ屬スル故ニ大統領ノ考一ツニテ解決容易ナル故早晩實現ノ可能性アリ殊ニ議會方面ノ都合着キテ前述ノ如キ「ミス、パーキンス」等カ出席スレハ總會ニ於テ既ニ何等カノ「ヂエスチユア」ニ出テントモ保シ難キ模樣ナリ唯目下ノ世界ノ形勢ニテハ聯盟ニ接近セハ親佛反獨ト觀ラレ之ニ遠サカレハ其ノ反對ト看做サル惧アリ故ニ右ノ如キ形勢カ新聞紙上ニ宣傳セラルル時ハ直ニ「米國政府ハ壽府ニ接近ス聯盟ニモ加入スル氣ナリ親佛反獨ニ出ツ」ト即斷サレ國内輿論カ沸騰スル危險アル故差當リ當地ニテハ自分等極少人數以外ニハ之ヲ承知シ居ラス是非内密ニ願フ

米ヘ暗送セリ

24　昭和9年5月2日　在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事より広田外務大臣宛(電報)

国際労働総会における日本の経済進出問題への対応方針につき請訓

ジュネーヴ　5月2日後発
本　省　5月3日前着

第九八號

往電第七一號ニ關シ

其ノ後勞働事務局側ニ於テハ日本ノ經濟進出問題ヲ爲替關係ニ集中シ勞働機關ノ干渉事項ニアラスト爲シナルヘク總會以前ニ結ヲ附ケント焦慮シ居ル模樣ナルカ各國代表カ總會ニ於テ個々ニ又ハ共同シテ我方ヲ公然誹謗スルカ如キ態度ニ出テ若ハ我方ノ受諾シ難キ決議案等ヲ提出スルカ如キ場合ニハ我方モ篤ト之カ對策ヲ講スルノ要アルヘク今回御差遣ノ各代表ニハ夫々充分ノ訓令ヲ與ヘラレタル次第ト察セラルルモ本件ノ歸結如何ハ延イテ我通商保護ノ問題ハ勿論一般國際關係ニモ累ヲ及ホスヘキニ付當方トシテハ漫然傍觀シ居ルヲ得サル處帝國政府ハ曩ニ聯盟脱退後ト雖非政治的且技術的性質ヲ有スル勞働機關ニ對シテハ依然協力ヲ

継續スヘキ趣旨ヲ宣明セラレ居リ今俄ニ此ノ態度ヲ變更シ輕々ニ代表引揚若ハ脱退ヲ斷行セラルルハ主義上甚タ面白カラサルノミナラス實際上内ニ於テ社會問題ノ將來ニ及ホス種々ノ影響ヲモ充分考慮スルノ要アルト共ニ外ニ於テハ世界ノ輿論ニ對シ日本ハ愈孤立「ダンピング」續行ノ覺悟ヲ爲スモノナリトノ印象ヲ深カラシメ各方面ニ對スル通商障害撤廢ノ交渉ヲ益困難ナラシムルノ危險アリ(往電第九二號米國加入ノ形勢モ考慮ニ値ス)ト存セラルルニ付當方ニ於テハ帝國勞働事務所トモ充分聯絡ヲ保チ一方當地新聞記者團ニ對シ今般御送附ノ資料ニ基キ我立場ノ説明ニ努力シ他方總會各國代表等カ前記ノ如キ行動ニ出テサル樣勞働事務局ノ盡力ニ對シ適宜支援ヲ與ヘ度キ心算ナルカ本件ニ關スル政府ノ御方針當方ノ心得迄ニ御回電願ヒ度シ

25　昭和9年5月7日　広田外務大臣より在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事宛(電報)

当面国際労働機関からの脱退は考慮しおらざるが我が方不利な形勢にならぬよう対応方訓令

本　省　5月7日後2時10分発

第七二號

貴電第九八號ニ關シ

帝國政府トシテハ目下ノ所本件ニ關聯シ勞働機關脱退等ヲ考慮シ居ル次第ニハ非サルモ萬一將來各國カ勞働機關本來ノ使命ヲ忘レ勞働總會等ヲ利用シテ帝國ニ對シ不當ナル策動ヲ爲スカ如キコトアル場合ニハ帝國ノ勞働機關ニ對スル協力ニ付再考ヲ加フルノ已ムナキニ至ルヤモ計リ難ク此ノ點ハ先般「モーレット」來朝ノ際ニモ鮎澤ヲ通シ「モ」ニ説示セシメ置キタル所ナリ貴電ニ依レハ勞働事務局側最近ノ見解ハ大体穏當ナリト認メラルルニ付貴官ハ帝國勞働事務所ト協力シ北岡代表携行ノ資料等ニ基キ帝國ニ取リ不利ナル形勢ヲ釀成セサル樣今后共精々努力アリタシ

26　昭和9年5月7日　在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事より広田外務大臣宛

麻薬製造制限条約我が方留保宣言はそのままとし事務総長送付状修正の上各国に回付するにつき連盟側との協議について

機密本公第三二一號　(5月29日接受)

昭和九年五月七日
在壽府
國際會議帝國事務局長
代理兼日本帝國總領事　横山　正幸（印）
外務大臣　廣田　弘毅殿

麻藥制限条約批准留保ニ関スル件

過般電報ヲ以テ御来示アリタル本邦ノ麻藥条約批准留保ニ関スル件ハ其後引続キ聯盟事務局側ト熟議ヲ重ネタルカ当方ニ於テハ先ツ四月五日附貴電ノ趣旨ニ基キ覚書（附屬書甲号（省略））ヲ準備シ且ツ事務局側覚書ノ修正案（附屬書乙号（省略））ヲモ作製シ之ヲ説明ノ基礎トシテ協議セリ

事務局側ハ我方留保ノ正文解釈ニ依ルトキハ各種委員会委員ノ任命ニ関スル我方現在ノ地位ヲ留保スルノミニ止マラス我方委員ノ地位ヲモ保持スルコトヲ意味スルモノト解シタルハ我方留保案中其ノ Composition 即チ構成ノ現地位ヲモ留保シ居ル処事務局側ハ右構成トハ本邦ノ委員ヲモ含メタル現委員会委員ノ構成ヲ意味スルモノト解釈シタルモノニシテ従テ事務局側説明書ニ記載セルカ如キ二様ノ留保ヲ意味スルモノトノ説明ヲ与ヘタル次第ナリシカ之ヲ貴電ノ趣旨ニ依ル当方ノ説明ニ照合シ本邦ノ留保ノ趣旨ヲ明確ニ表示スル為ニハ留保案ニ修正ヲ加ヘ其ノ趣旨ヲ誤解ナカラシムルコト得策ナルヘシトテ非公式ニ大要左ノ如キ修正意見ヲ提議セリ

（三月二十七日附往信機密本公第二一〇號事務総長ノ本邦留保送状案中ノ留保（佛文）中）

……il estime que la situation actuelle du Japon…… doit être maintenue en ce qui concerne la faculté de participer à la nomination de la Commission Consultative d'Opium et le Comité Central Permanent d'Opium et le Comité d'Hygiène de la S. D. N.

右修正案ハ大体ニ於テ我方説明ノ趣旨ニ依ルモノナルコト事実ナルモ其ノ留保ヲ各機関ノ委員任命ニ参加スルノ権利ノミニ局限スルコトハ面白カラサルヘク我方トシテハ任命ニ参加ト同時ニ其ノ各機関ノ組織変更ノ場合等ニ際シテモ之カ審議ニ参加スルノ権利ヲモ考慮シ置ク要アルヘク又諸機関ヲ一々列挙スルコトモ問題ナルヘク何レニセヨ右修正案ニヨリテハ我方留保ノ本旨ヲ未タ充分ニ表明シ得サル點アルト同時ニ之カ採用ニハ枢府トノ関係ニテ手続上ノ面倒

アルヘキコトヲモ考慮セサル可ラス旁々当方ハ此際我方留保案ニハ手ヲ触レス寧ロ他ノ方法ニ依リ其ノ目的ヲ達スルコト得策ナリトシ原案維持ヲ主張セリ

然ラハ別紙甲号ノ説明書ヲ事務局覚書ニ代ヘテ各国政府ニ送付スルコトノ可否如何ヲ研究スルノ要アリトテ其ノ場合各国政府カ如何ナル態度ニ出ツヘキヤヲ検討セルカ留保案ノ文理解釈ト異リタル趣旨ヲ含ム日本側ノ説明ニ対シ各国ニ於テ疑問ヲ抱クコトアルヘク更ニ各国政府中之ニ関シ補足的説明ヲ求ムルモノヲモ生スベク問題ヲ紛糾セシムルノ恐アリ夫レヨリモ寧ロ此際ハ断然何等ノ説明ヲモ附セス日本側ノ希望ニ係ル留保案ヲ其ノ儘取リ次クコトヽセハ却ツテ簡單ナルヘシ其ノ場合ニ於ケル各国ノ態度ヲ想像スルニ

(イ)本件ノ重要性ヲ認ムル利害関係国ハ或ハ留保ノ内容及性質等ニ付質問ヲナスニ至ルヤモ知レサルカ

(ロ)大多数ノ国ハ右ノ如キ具体的研究ニ深入リセス其儘之ニ同意スルカ反対スルカノ孰レカナルヘク

右ノ中(イ)ノ質問ヲ提出セル国ニ対シテハ其ノ都度事務局側ト本邦側ト協議ノ上ニテ本邦側希望ノ通リ説明ヲ与フレハ可ナルヘク(ロ)ノ反対スル国ヲ生シタル場合ニハ日本政府ニ於テ留保案ヲ抛棄シテ批准ヲ決行セラルヽカ又ハ全然批准ヲ断念セラルヽカノ何レカヨリ途ナカルヘキカ此ノ(ロ)ノ場合ハ假令最初ヨリ留保案ニ関シ詳細ノ説明ヲ附スル場合ニモ起リ得ヘキ事態ナル故寧ロ説明ハ必要ニ應シ之ヲ希望スル国ニ対シテノミ与フル方カ可ナルヘシト云フカ大多数ノ意見ナリシ為其ノ通リ内定セル次第ナリ右ハ目下不在中ノ法律部長ノ帰任ヲ待チ阿片部長ヨリ再協議ノ上事務総長ニ報告シ且当方モ念ノ為メ一應政府ノ意向ヲ問合スコトトシ其ノ上ニテ近日中右ノ通リ取運フコトニ決定セリ

右不取敢報告ス

27　昭和9年5月16日　在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事より広田外務大臣宛（電報）

満州国への麻薬類輸出の監督方法に関する連盟事務総長への中国側通告について

別　電　五月十六日発在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事より広田外務大臣宛第一一〇号

右通告

ジュネーヴ　5月16日後発
本　省　5月17日前着

第一〇九號
往電第一〇八號ニ關シ
一、情報ヲ綜合スルニ同委員會ニ於テハ「エデン」ノ提案理由說明ニ次キ「マシグリ」ヨリ本件カ不承認主義ト關係無ク技術的ニ解決シ得可キ問題ナル次第ヲ明カニシ「チエツコスロバキア」委員亦露國ノ場合ノ先例ヲ引キテ實際的解決ノ可能ナルヲ述ヘ更ニ「ゴルジエ」ハ解決策トシテ萬國郵便條約第七十三條ノ適用方研究ノ餘地アル可シト「サジエスト」セル後結局「コンミユニケ」ノ通リ議長ニ於テ主要ノ關係國委員ト解決策考究ノ事ニ決セルカ解決後議長ハ直ニ英佛委員及事務局法律專門家ヲ集メ右ニ關スル協議ヲ開始セリ
二、顧維鈞ヨリ五月一日附ヲ以テ事務總長ニ對シ要領別電第一一〇號ノ通ノ通告ヲナセルカ本件モ十六日ノ委員會ニテ討議セラルル由ナリ
本電別電ト共ニ米ヘ轉電セリ
歐洲各大使ヘ暗送セリ

（別　電）

ジュネーヴ　5月16日後発
本　省　5月17日前着

第一一〇號
政府ノ命ニ依リ本使ハ諮問委員會ノ提議ニ係ル滿洲國不承認ニ關スル措置ノ内容及目的ヲ深ク多トシ左記意見ヲ留保シテ聯盟國及日支紛爭ニ付聯盟ノ報告ヲ受ケタル非聯盟國カ右措置ヲ執ル事ノ利益ヲ力說スル事ニ付委員會ニ贊成ス
回章第四項ニ關シ支那政府ハ滿洲國現制度ノ與フル任命特許及契約ハ無效ナリト看做ス
第七項ノ勸告ニ關シ滿洲及熱河ヘノ阿片及他ノ麻藥輸出ノ供給ニ關シテハ委員會ノ勸告セル方法ハ誤解ヲ招キ不承認原則及麻藥ノ加害ノ戰フ（トカ）努力ヲ害スルヲ虞ル一九二五年壽府條約ノ規定セル輸入許可證ハ輸入國政府ノ下附スル公文書ナルカ滿洲國現制度ハ其ノ締約國タラサルノミナラス聯盟ヨリ見テ國家ト認メラレ居ラス若シ斯ル輸入許可證ヲ供給シ輸出許可ノ一條件トナサハ不承認原則ト矛盾スル解釋ヲナサシムル事トナル可シ加之阿片ニ關シテ提議セラレタル手續ハ一九一二年海牙條約ニ鑑ミ無用ナル可シ滿洲國及熱河ハ支那ノ他ノ部分ト同シク右條約ニ遵ヒ常ニ輸入禁止セラレ居レリ
支那政府ハ滿洲熱河宛麻藥ノ輸出再輸出若ハ積換ノ要求ヲ許可セサル事ヲ求ムル一般的勸告ヲ可ナリト認ム最近ノ阿片諮問委員會ニ於テモ輸入許可證輸出許可ノ特別手續ヲ要セサルカ如キ手續ニ贊成スルモノ多數アリタリ同地方ニハ收入ヲ目的トシ阿片ノ製造及販賣ニ關スル專賣制度存在シ且多大ノ貯藏阿片及製產ノ增加アルニ鑑ミ同地方ニ輸出ヲ新ニ許可スルハ脅威ニ充チタル狀態ヲ惡化スルニ過キス同地方ノミニテハ新專賣ニ依リ耕作セラルル阿片ノ全部ヲ消費スルヲ得サル可ク其ノ過剩ハ支那ノ他ノ部分ニ非合法的ニ移入セラルル事トナルノミ新專賣ハ金錢收入ヲ目的トスル外支那ノ隣接諸國及滿洲熱河ノ人民ニ阿片中毒ヲ傳播シ支那人ヲ墮落セシメントスル深謀ヲ有スルモノノ如シ從テ右地域ニ對スル輸出ノ完全ナル中止ハ惡ヲ減少スルニ效アリ若シ他ノ國ヨリ阿片以外ノ麻藥ノ直接輸入カ直ニ必要ナルニ於テハ滿洲國ニ於ケル領事ニ依リ下附セラルル輸入許可證ニ依ル監督方法一層有效ニシテ且不承認原則ニ反スル解釋ヲ許ササルノ利益アリ

28　昭和9年6月4日　在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事より広田外務大臣宛（電報）

満州国への麻薬類輸出監督制度に関する中国提案の連盟アヘン諮問委員会における審議状況について

ジュネーヴ　6月4日後発
本　省　6月5日前着

第一二九號
貴電第八一號ニ關シ（第十八回阿片諮問委員會ノ件）
卅一日秘密會ニ於テ往電第一一四號後段ノ支那側提議ヲ審議セルカ劈頭本官ハ
一、貴電第七七號、三ノ御趣旨ニ依リ五月廿二日附ヲ以テ事務總長宛傳達シ置キタル理事會決議ニ關スル帝國政府ノ回答ヲ披露シ帝國態度ヲ暗示シ
二、麻（マカ）藥輸入ニ關スル在滿領事ノ發給證明ノ如キハ滿洲國當局ノ承認無キ限リ無効ナルヲ以テ斯カル新制度ヲ本委員會ニ於テ決議スルモ死文ニ歸スヘシト述ヘ
三、又顧維鈞ノ書面（往電第一一〇號）中ニ掲ケタル提案理由ハ政治的見地ヨリ本邦攻擊ヲ目的トセルモノナルコト明

白ナルヲ以テ若シ本委員會カ右提議ヲ受諾スルニ於テハ右提案ノ理由ヲモ同時ニ承認セルモノニシテ結局阿片問題ニ關スル本邦ノ努力及誠意ヲ否認セルモノト解スヘク從テ我方協力ノ上ニ重大ナル支障ヲ來スノ惧アリト論シ右提議ノ採擇ニ對シ愼重ノ考慮ヲ促シタリ
次イテ英、佛、蘭、葡等ノ各委員モ支那案ニ反對シ殊ニ英ハ領事發給ノ證明書制度ハ到底滿足ナル結果ヲ得ル能ハサルヘク寧ロ一九二五年壽府條約規定ノ輸入證明制度ニ依ルヲ有効ナリト認ムトノ趣旨ヲ日支紛爭委員會ヘ回答スヘシト提議ス
支那委員ハ一應原案支持ヲ主張セルモ其ノ成立見込無カリシ爲英ノ提案ニ對シ輸入證明發給官憲ニ關シテハ本委員會ハ何等ノ意見ヲ表示セストノ追加文句ヲ提議シ審議ノ結果右文句ヲ附加セル英案ヲ全會一致承認セリ

29 昭和9年6月21日　在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事より広田外務大臣宛

麻薬製造制限条約に関する我が方留保連盟事務総長より通報について

普通本公第四二六號　（7月19日接受）

昭和九年六月二十一日

在壽府
國際會議帝國事務局長代理兼日本帝國總領事　横山　正幸〔印〕

外務大臣　廣田　弘毅殿

麻藥製造制限條約ニ對スル本邦留保通報ノ件

麻藥製造制限條約ニ対スル本邦ノ留保ニ關シテハ聯盟事務局ニ於テ之カ通報方ニ關シ準備中ナリシ処愈々本月十九日附ヲ以テ右留保ノ通報ヲ各締約国ニ發送シタル趣ニテ今回事務總長ヨリ貴大臣宛之カ寫ヲ送付シ來リタルニ付右茲ニ別添送付ス御査閲相成度シ

（別　添）

Geneva, June 19, 1934.

The Secretary-General has the honour to communicate herewith, for information, to the Japanese Government, copy of a Circular Letter which he is addressing to-day to the States parties to the Convention for limiting the Manufacture and regulating the Distribution of

Narcotic Drugs, signed at Geneva on July 13, 1931, regarding the reservation to which the Japanese Government desires to make its ratification of the Convention subject.

30 昭和9年6月23日　在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事より広田外務大臣宛（電報）

国際労働総会における日本攻撃回避の状況について

ジュネーヴ　6月23日後発
本　省　6月24日前着

第一五〇號

勞働總會ニ對シ當方ニ於テハ御訓令ノ趣旨ヲ體シ側面ヨリ微力ヲ盡シ來レルカ帝國政府勞資各代表ハ大局ニ鑑ミ結局協調ヲ保全シ局長報告ヲ中心トスル一般討論ニ於ケル演説ニ於テモ外部ニ乘セラルルカ如キ隙ヲ作ラス各國代表中特ニ日本攻撃ヲナスモノ無ク先般來懸念セラレタルカ如キ我方ニ不利ナル事態ハ生セサルニ至レリ右ノ形勢ハ事務局側首腦部カ豫メ我方ノ立場及覺悟ヲ了解シ形勢ノ惡化ヲ避ケントシテ善處シタルニモ依ルコト認メラルル處「バットラー」ハ本年十一月頃約一ケ月本邦ヲ訪問シ諸事情ヲ研究シ關係各方面ト意見ノ交換ヲナシタキ希望ヲ表明シ居ルニ付他ニ支障無キ限リ右來訪ニ異議ヲ唱ヘス寧ロ諸般ノ便宜ヲ與ヘ本邦ノ事情ヲ良ク了解セシメ置クコト將來ノ爲有益ニアラスヤト存セラル
英佛ニ暗送セリ

31 昭和9年8月9日　重光（葵）外務次官より橋本（虎之助）陸軍次官・長谷川（清）海軍次官宛

一九二九年赤十字条約および俘虜条約の批准奏請につき照会

付記一　八月三十一日付長谷川海軍次官より重光外務次官宛公信官房機密第一九八四号ノ二
一九二九年赤十字条約の批准奏請には異存ないが俘虜条約については追って回答の旨の回答

二　九月六日付橋本陸軍次官より重光外務次官宛公信陸密第五二一号

一九二九年赤十字条約の批准奏請には異存ないが俘虜条約の批准奏請は不可の旨の回答

三　十一月十五日付長谷川海軍次官より重光外務次官宛公信官房機密第一九八四号ノ三
俘虜条約の批准奏請は不可の旨の回答

四　十月十二日付広田外務大臣より岡田（啓介）内閣総理大臣宛公信条一機密第六一八号
一九二九年赤十字条約の批准奏請について

五　十月二十六日付岡田内閣総理大臣より広田外務大臣宛公信内閣外甲第七四号
一九二九年赤十字条約の批准裁可について

條一機密合第三〇九一號
昭和九年八月九日
外務次官　重光　葵
陸軍次官　橋本　虎之助殿
海軍次官　長谷川　清殿
「戰地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ狀態改善ニ關スル千九百二十九年七月二十七日ノ「ジュネーヴ」條約」及「俘虜ノ待遇ニ關スル千九百二十九年七月二十七日ノ條約」御批准方奏請ニ關スル件
本件ニ關シテハ昭和六年六月五日附條二機密合第一七三九號ヲ以テ申進メ置キタル處當省ニ於テハ近ク右二條約ニ對シ御批准方奏請ノ手續ヲ執リタキ意嚮ナルモ右差支ナキヤ貴省ノ御意見折返シ御回示相成度シ
追而戰地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ狀態改善ニ關スル條約新舊對照表（省略）一部添付ス

（付記一）

官房機密第一九八四號ノ二　（9月1日接受）
昭和九年八月三十一日
海軍次官（印）
外務次官殿
「戰地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ狀態改善ニ關スル千九百二十九年七月二十七日ノ「ジュネーブ」條約」御批准方奏請ニ關スル件回答
條一機密合第三〇九一號ヲ以テ照會ノ首題ノ件當省トシテハ異存無之候
追テ「俘虜ノ待遇ニ關スル千九百二十九年七月二十七日ノ條約」ニ關シテハ追テ回答致スベク候　（終）

（付記二）

陸密第五二一號　（9月7日接受）
戰地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ狀態改善ニ關スル千九百二十九年七月二十七日ノ「ジュネーブ」條約及俘虜ノ待遇ニ關スル千九百二十九年七月二十七日ノ條約御批准奏請ニ關スル件回答
昭和九年九月六日
陸軍次官　橋本　虎之助（印）
外務次官　重光　葵殿
八月九日附條一機密合第三〇九一號照會ニ依ル首題ノ件中「戰地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ狀態改善ニ關スル千九百二十九年七月二十七日ノ「ジュネーブ」條約」ニ關シテハ御批准方奏請ニ異存無之モ「俘虜ノ待遇ニ關スル千九百二十九年七月二十七日ノ條約」ニ就テハ御批准奏請ヲ爲サザルヲ可トスル當省ノ意見ニ付可然取計ヒ相成度

（付記三）

官房機密第一九八四號ノ三　（11月16日接受）
昭和九年十一月十五日
海軍次官（印）
外務次官殿
「俘虜ノ待遇ニ關スル千九百二十七年七月二十七日ノ條約」御批准方奏請ニ關スル件回答
八月九日附條一機密合第三〇九一號ヲ以テ照會ノ首題ニ關シテハ不取敢官房機密第一九八四號ノ二ヲ以テ回答致置候處其ノ後研究ノ結果同條約ハ御批准方奏請セラレザルヲ可トスル當省ノ意見ニ有之候　（終）

（別紙意見添）

（別　紙）

俘虜條約ニ對スル意見

一、帝國軍人ノ觀念ヨリスレバ俘虜タルコトハ豫期セザルニ反シ外國軍人ノ觀念ニ於テハ必シモ然ラズ從テ本條約ハ形式ハ相互的ナルモ實質上ハ我方ノミ義務ヲ負フ片務的ノモノナリ

二、俘虜ニ關スル優遇ノ保證ヲ與フルコトトナルヲ以テ例ヘ

バ敵軍將士ガ其ノ目的達成後俘虜タルコトヲ期シテ空襲ヲ企圖スル場合ニハ航空機ノ行動半徑倍大シ帝國トシテ被空襲ノ危險益大トナル等我海軍ノ作戰上不利ヲ招クニ至ル虞アリ

三、第八十六條ノ規定ニ依リ第三國代表ガ立會人ナク俘虜ト會談シ得ル點ハ軍事上支障アリ

四、本條約ノ俘虜ニ對スル處罰ノ規定ハ帝國軍人以上ニ俘虜ヲ優遇シアルヲ以テ海軍懲罰令、海軍刑法、海軍軍法會議法、海軍監獄令等諸法規ノ改正ヲ要スルコトトナルモ右ハ軍紀維持ヲ目的トスル各法規ノ主旨ニ徵シ不可ナリ

右ノ理由ニ依リ本條約ハ御批准方奏請セラレザルヲ可ト認ム

（終）

（付記四）

條一機密第六一八號

昭和九年十月十二日

外務大臣　廣田　弘毅

内閣總理大臣　岡田　啓介殿

戰地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ狀態改善ニ關スル千九百二十九年七月二十七日ノ「ジュネーヴ」條約御批准方奏請ノ件

瑞西國「ジュネーヴ」ニ於テ帝國全權委員ガ關係各國全權委員ト共ニ議定シ且留保ノ上署名シタル戰地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ狀態改善ニ關スル千九百二十九年七月二十七日ノ「ジュネーヴ」條約ニ關シ前記留保ヲ存シタル儘御批准ヲ仰グコトト致度別紙ノ通上奏致候間可然御取計相成度

右條約ノ正文及譯文各四部（省略）相添ヘ此段及請議候也

昭和九年十月十二日

外務大臣　廣田　弘毅

（別　紙）

（上奏案）

瑞西國「ジュネーヴ」ニ於テ帝國全權委員ガ關係各國全權委員ト共ニ議定シ且留保ノ上署名シタル戰地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ狀態改善ニ關スル千九百二十九年七月二十七日ノ「ジュネーヴ」條約ヲ前記留保ヲ存シタル儘御批准相成樣仕度別紙御批准書案相添ヘ此段謹デ奏ス

昭和九年十月十二日

外務大臣　廣田　弘毅

（別　紙）

（御批准書案）

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝（御名）此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕帝國全權委員ガ瑞西國「ジュネーヴ」ニ於テ關係各國全權委員ト共ニ議定シ且留保ノ上署名シタル戰地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ狀態改善ニ關スル千九百二十九年七月二十七日ノ「ジュネーヴ」條約ヲ閱覽點檢シ右留保ヲ存シテ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元　年昭和　年　月　日　ニ於テ

親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名國璽

外務大臣

（付記五）

内閣外甲第**七四**號　（10月26日接受）

昭和九年十月二十六日

内閣總理大臣　岡田　啓介（印）

外務大臣　廣田　弘毅殿

指　令

昭和九年十月十二日條一機密第六一八號

戰地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ狀態改善ニ關スル千九百二十九年七月二十七日ノ「**ジュネーヴ**」條約御批准ノ件上奏ノ通裁可ヲ經タリ

32　昭和9年8月22日　在米国藤井（啓之助）臨時代理大使より広田外務大臣宛（電報）

米国の国際労働機関加入通告について

ワシントン　8月22日前発

本　省　8月23日前着

第三八八號

往電第三一三號ニ關シ

米國政府ハ八月二十日在壽府米國總領事（領事カ）「ギルバート」ヲ通シ六月十九日米國議會ノ「オーソリゼーシヨン」ニ基キ六月二十二日附國際勞働總會ニ依ル國際勞働機關ニ對スル米國ノ參加加入決議ヲ受諾スル旨通告ヲ爲シタリ右通告文中米國政府ハ右米國ノ參加ハ八月二十日ヨリ效力發生スヘキ事及前記國際勞働總會參加加入決議中ニ表示セラレタル

（右参加ハ國際勞働機關組織法中ノ權利及義務ヲ負擔スルコトトナルモ聯盟規約上ノ義務ヲ負擔スルコトトナラサル）旨ノ了解ヲ條件トスヘキモノナル事ヲ述ヘ居レリ

33　昭和9年9月3日　赤木（朝治）内務省社会局長官より重光外務次官宛

連盟脱退通告後の我が方国際労働機関経費分担に関する同事務局長宛文書について

收勞第二一九號ノ内　（9月4日接受）

昭和九年九月三日

社會局長官　赤木　朝治（印）

外務次官　重光　葵殿

本邦政府ノ國際勞働機關分擔金ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ國際勞働事務局長ニ對スル回答方ニ付在壽府國際勞働機關帝國事務所長ヨリ別紙寫ノ通照會有之候條至急何分ノ御回示相煩度

追テ別紙寫所載ノ國際聯盟豫算表ハ“League of Nations Official Journal”一九三三年十月號送付方省略候條御参照相成度

（別　紙）

理第二八五號

昭和九年八月三日

國際勞働機關帝國事務所

所長　吉阪　俊藏

社會局長官　赤木　朝治殿

本邦政府ノ國際勞働機關分擔金ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ國際勞働事務局ニ付キ調査シタル結果左ノ通リニ有之千九百三十四年度國際聯盟豫算表参考迄相添ヘ右及回答候也

追而目下國際聯盟會計監督委員會ニ於テ審議中ノ現行國際聯盟財政管理規則第二十二條改正問題ニ關聯シ本報告末尾記載ノ如ク局長ヨリ本規則改正ノ場合ニ於テ千九百三十五年三月二十八日以降十二月三十一日迄ノ期間ニ對スル日本政府ノ分擔金ヲ千九百三十五年度豫算ノ控除ノ部ニ記載スルコトニ付キ日本政府ハ異議ヲ有スベキヤ否ヤヲ照會シ來リタル處別段異議無之ト存ズルモ爲念至急何分ノ御回答相煩度

記

左ニ掲グル數字ハ單ニ臨時的ノモノニ過ギズシテ國際聯盟總會ガ國際勞働機關ノ豫算ニ對シ何等カノ變更ヲ加ヘタルトキ又ハ其ノ經費ノ割當ニ關シ何等カノ變更ヲ生ジタルトキハ之等ノ變更ノ影響ヲ受クベキハ勿論ナリトス

一、千九百三十五年度一般分擔金總表中ニ示サレタル國際聯盟全体ニ對スル日本ノ負擔金ハ千九百三十五年一月一日ヨリ日本政府ガ聯盟ヲ脱退スベキ三月二十七日ニ至ル期間ニ付キ四十四萬七千三百七十金法七十ナリ右ノ數字ハ日本政府ニ割當ラレタル六十單位ヲ千九百三十五年一月一日ヨリ三月二十七日ニ至ル期間ノ割合ニ相當スル一三、九七二六單位ニ減額シタル後他國ノ分擔金ノ場合ニ於ケルト同ジク豫算ヲ總單位數ニ均一ニ割當テ而シテ日本ニ對シ減額サレタル單位數ヲ歸屬セシムルコトニ依リテ得ラレタルモノナリ

千九百三十五年一月一日ヨリ三月二十七日ニ至ル期間ノ日本ノ國際勞働機關ニ對スル分擔金ハ國際聯盟ニ支拂ハルベキ四十四萬七千三百七十金法七十中ニ包含セラレ居リ其ノ額ハ十二萬五千三百六十四金法八十ナリ。

二、日本ノ分擔金ノ計算ノ基礎タル單位數ハ各國政府ノ分擔スベキ單位數決定ノ責任ヲ有スル經費分擔委員會ノ勸告ニ基キ聯盟總會ニ依リテ確定セラレタルモノナリ

三、千九百三十五年三月二十八日ヨリ十二月三十一日ニ至ル期間ニ對スル日本ノ國際勞働機關ヘノ分擔金（恩給ヲ除ク）ハ六十單位ヨリ一三、九七二六單位ヲ控除シタル殘リ即チ四六、〇二七四單位ヲ基礎トシテ計算セラレタルモノニシテ國際勞働機關ノ總豫算ニ對スル右單位數ノ割合上其ノ額ハ四十一萬二千九百六十六金法八十ナリ右ハ國際聯盟財政管理規則第二十二條第一項ノ規定ニ依リテ確定セラレタル處ニシテ其ノ全文左ノ如シ

單ニ國際聯盟ノ一機關ノ締盟國ニ過ギザル國ハ之等ノ國ガ國際聯盟ノ締盟國ナル場合ニ於テ右機關ノ經費ヲ分擔スベキ割合ヲ以テ且先例ニ從ヒ出來得ル限リ速ニ右機關ノ經費ニ對シ分擔金ヲ支拂フベシ

恩給ヲ除キタル日本ノ國際勞働機關ニ對スル千九百三十五年度分擔金總額ハ右ノ如クシテ十二萬五千三百六十四金法八十ト四十一萬二千九百六十六金法八十トノ合計卽チ五十三萬八千三百三十一金法六十ナリ

四、千九百三十五年度ニ於ケル恩給ノ見積總額ハ百七十七萬

二千六百金法ニシテ内七十七萬千五百九金法ハ國際勞働事務局職員ニ對スルモノトス。千九百三十五年一月一日ヨリ三月二十七日ニ至ル期間ニ付テハ日本政府ハ恩給基金ニ對スル其ノ分擔金ヲ國際聯盟ニ對スル其ノ一般分擔金ニ於テ支拂フモノナリ。三月二十八日以降十二月三十一日迄ニ到ル期間ニ付テハ日本政府ノ國際勞働事務局職員恩給基金ニ對スル分擔金ハ三萬七千三百二十四金法九十五ニシテ右ハ國際勞働機關ノ一般經費ニ對スル分擔金ニ於ケルト同樣ノ基礎ニ於テ計算セラレタルモノナリ。

以上ノ如クシテ千九百三十五年三月二十八日以降十二月三十一日迄ノ期間ニ付テ日本政府ヨリ直接國際勞働機關ニ支拂ハルベキ分擔金總額ハ左ノ如シ

經常費ニ對シ	四一二、九六六・八〇金法	
恩給　ニ對シ	三七、三二四・九五金法	
計	四五〇、二九一・七五金法	

(三)北米合衆國ガ國際勞働機關ノ締盟國タルコトヲ受諾スベキ場合ニ於ケル日本分擔金ノ減額如何ノ問題ニ關シテハ局長ハ北米合衆國ガ第十八回國際勞働總會ノ發シタル招待ニ對シ何等カノ回答ヲ爲ス迄ハ之ヲ取扱フコト困難ナリトナシ本件ニ關シ何等カノ情報ヲ提供シ得ルニ至ルトキハ直ニ照會スベキコトヲ約セリ

尚現行國際聯盟財政規則第二十二條第二項ノ規定ノ下ニ於テハ國際聯盟ノ非締盟國ヨリノ分擔金ハ其ノ支拂ハルル年度ニ非ズシテ其ノ翌年度ノ豫算ノ控除ノ部ニ記入セラルルモノトス

(別添千九百三十四年度豫算表第一一八九頁及第一二三〇頁ブラジルノ分擔金參照)。本規則改正問題ハ目下聯盟會計監督委員會ニ於テ審議中ノ處局長ハ此ノ點ニ關聯シ本規則改正ノ場合ニ於テ千九百三十五年三月二十八日以降十二月三十一日迄ノ期間ニ對スル日本政府ノ分擔金ヲ千九百三十五年度豫算ノ控除ノ部ニ記載スルコトニ付キ日本政府ハ異議ヲ有スベキヤ否ヤヲ問合セ來リタリ

財政管理規則第二十二條第二項ノ規定左ノ如シ

第一項ノ規定ニ依リ徴收シ得ベキ分擔金總額ハ豫算面上別ニ之ヲ記載シ之ヲ受領シタルトキハ國際聯盟ノ各締盟國ノ翌年度分擔金總額ノ減額ノ爲メ之ヲ充當スベシ

34　昭和9年9月14日　在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事より広田外務大臣宛(電報)

連盟第十五回総会において中国代表が満州問題に論及について

ジュネーヴ　9月14日後発
本　省　9月15日前着

第一九三號

十四日總會ニ於テ郭泰祺ハ滿洲問題ニ論及シ各國カ滿洲國不承認ノ決議ヲ遵守シ且自國民ノ滿洲國內ニ於ケル經濟的活動ニ對シ保護ヲ與ヘサランコトヲ希望シ更ニ最近北鐵沿線其ノ他ノ匪賊ノ活動情況ヲ説明シ右ハ同地方人民カ新國家ニ對シ不滿ヲ抱キ居ルコトノ證左ニシテ日本ノ軍事的占領下ニ在ル現制度ハ東亞ノ平和ト兩立セスト述ヘタリ

在歐各大使ニ郵送セリ

35　昭和9年9月17日　在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事より広田外務大臣宛(電報)

中国の連盟理事再選要求否決について

ジュネーヴ　9月17日後発
本　省　9月17日後着

第一九九號

十七日午前總會ニ於テ支那ノ理事會再選資格要求ニ關シ無記名投票ノ結果有效投票總數五十二ノ中贊成二十一ニテ三分ノ二ニ達セス右要求否決セラル西國再選資格ハ四十四票ニテ可決

36　昭和9年9月19日　在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事より広田外務大臣宛(電報)

非連盟国の連盟機関への分担金に関する連盟財政管理規則第二十二条の改正点について

ジュネーヴ　9月19日後発
本　省　9月20日前着

第二〇三號

貴電第一二一號ニ關シ(聯盟財政管理規則第二二條改正問題ノ件)

改正案ハ現行第二十二條ニ替ヘ(一)聯盟國ノ分擔金以外ノ收得金ハ可能ナル限リ豫メ之ヲ算出シ當該年度ノ豫算ヨリ控

除スヘシ㈡豫算確證ノ附屬トシテ右收得金ノ「リスト」ヲ揭クヘシト定メントスルモノニシテ先週勞働事務局長ヨリ監督委員會ニ提出目下同委員會ニテ審査中改正案文郵送セリ

37　昭和9年9月22日　在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事より広田外務大臣宛(電報)

中国の連盟理事再選に関する各国の動向について

ジュネーヴ　9月22日後発
本　省　9月23日前着

第二〇八號

貴電第一二五號ニ關シ(支那理事國落選原因調方ノ件)

當時既ニ各方面ノ風評及聞込ニ矛盾多ク眞相ノ探知至難ナルカ略的確ト認メラルル分左ノ通

一、英ハ公然反對ヲ表明セハ支那ノ反感ヲ買ヒ非買同盟等ノ危險アル故土耳古ハ蘇聯贔屓過ク等ト吹聽シ置キテ實ハ内密反對投票セリ加奈陀之ニ倣ヒタルラシキモ他ノ英領ニ付テハ不明ナリ

二、小協商及巴爾幹諸國ハ土耳古ニ對スル好意表明ノ爲又北歐三國、白、蘭、瑞西及中南米ノ多數國ハ順次交代制嚴守ノ主義上ヨリ何レモ反對セリ

三、佛外相ハ前日支那代表ノ訪問ヲ受ケタル後多數ノ記者ニ對シ「此ノ投票ハ「アカデミシアン」ノ選擧同樣ナレハ色好キ返事ヲ與ヘ置ケリ」ト漏セル由ニテ實ハ右大勢ニ應シ反對セリト思ハル

四、伊國ハ土ニ反對シ支那ニ好意的ナル故贊成セリ

五、其ノ他ハ不明ナルカ支那ノ敗因ハ年金滯納國内不統一等ニテ各國共稍々愛想ヲ盡カシ居ル際郭代表ノ演説ハ却テ不快ノ感ヲ與ヘタルニ對シ土耳古外相ノ擧措カ一般ニ好評ヲ博シタルニ在リト稱セラル

38　昭和9年9月22日　在南京須磨(弥吉郎)総領事より広田外務大臣宛(電報)

連盟総会における中国代表演説に対する我が方抗議に唐外交部次長釈明について

南　京　9月22日後発
本　省　9月23日前着

第九六三號

貴電第一五〇號ニ關シ

汪兆銘ハ本廿二日上海ヨリ歸來持病及旅行ノ爲疲勞シ居ル樣子ナリシニ付唐有壬ニ對シ貴電ノ趣旨ヲ述ヘ國民政府ノ方針ニヨモヤ變更アリタルコトトモ思ハレサルニ此ノ種演説アルハ解シ難キ旨ヲ申入レタルニ唐ハ實ハ從來ノ南京政府方針殊ニ日支關係ヲ徒ニ刺戟スヘカラサル點ニ付テハ特ニ留意シ十一日郭泰祺ニ對シ總會ニ於テハ單ニ滿洲國不承認原則ノ遵守方ニ關シ支那ノ希望ヲ簡單ニ表明シ支那ノ非常任理事國再選方ニ主力ヲ注クヘキ旨電訓シ置キタルニ拘ラス其ノ後郭ヨリハ何等ノ報告ナキモ十四日壽府發新聞電報ニ依リ滿洲國鐵道沿線ニ於ケル匪賊ノ狀況迄持出シ要ラサル御喋リヲナシタル上滿洲國ノ紛擾ハ遂ニ蘇國ノ聯盟加入及米國ノ壽府接近ヲ結果セリ等途方モナキ演説ヲナシタルカ如ク實ハ政府部内擧ツテ郭ノ少クトモ輕卒ナルニ吃驚シ居リタル矢先果然十二日「デーリー、ニュース」等モ郭ハdiscreetナリトノ論説ヲ揭クルニ至レル爲汪兆銘ノ承諾ヲ得テ郭ニ注意電報ヲ發スルコトニ議纒マリ今朝汪ノ歸寧ト共ニ相談シタルニ汪モ郭ノ演説ハ演説トシテモ不出來ナルノミナラス内容ニ至リテモ越權ニテ要スルニ日支關係延テハ東亞ノ事態ニ認識ヲ缺クモ甚タシキ始末ナリト激昂シ右注意電報ヲ發スルコトニ打合セタル許リナルニ付政府ノ方針ハ不變ナルノミナラス日支關係ノ好轉ニ便スル樣注意ヲ怠ラサルハ豫テ御話シ置キタル通リナル旨ヲ茲ニ責任ヲ以テ御答ヘシ得ル次第ナリト述ヘ居タリ

壽府ヘ轉電アリタシ

公使、北平、滿ヘ轉電セリ

39　昭和9年9月25日　在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事より広田外務大臣宛(電報)

今次総会には連盟財政管理規則改正問題を提出しない旨の同会計監督委員会決定について

ジュネーヴ　9月25日後発
本　省　9月26日前着

第二一一號

往電第二〇三號ニ關シ(聯盟財政管理規則第二三條改正問題ノ件)

監督委員會ハ本件改正ハ未タ其ノ時機ニアラストノ理由ニテ今次總會ニハ提出セサルコトニ決定セリ

40　昭和9年9月26日　在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事より広田外務大臣宛（電報）

連盟第十五回総会における各国の動向にみる連盟の現況について

第二一四號　ジュネーヴ　9月26日後発　本　省　9月26日後着

今次[1]總會ニ於ケル列強ノ態度ヲ通シ聯盟ノ動向ヲ省察スルニ左ノ如シ

一、日本及獨逸ノ脱退ニ依リ聯盟擁護派ノ意氣銷沈ヲ來シタルハ總會劈頭ノ一般討論ニ於テ演說希望者殆ントナク議長及事務局側ノ勸誘ニ依リ漸ク三日目ヨリ數名ノ演說ヲ見タルカ何レモ一貫セル思潮ト熱意トヲ缺キタルニ徵スルモ明カナリ從テ歐洲均衡政策ノ便宜主義ニ立脚セル佛、英、伊ノ蘇聯招請案ハ聯盟ノ普遍性ヲ希望セル理想派ノ雷動若（同カ）ハ已ムナキ贊同ニ依リ其ノ實現ヲ見ルニ至レル處蘇聯ノ加盟ヲ承認シ及常任理事資格ヲ附與セル總會ノ雰圍氣ハ往年獨逸ノ加盟當時ニ比シ遙ニ冷靜ニシテ政治上及社會上根本的ニ主義ヲ異ニセル蘇聯ノ加入ニ對シ最初ヨリ絶對反對ノ瑞西ハ勿論理想派諸國ノ間ニスラ幾多ノ不安ノ念アルヲ窺知セシメタル程テ自今聯盟自体ノ團結力ハ却テ薄弱トナリ聯盟ハ今ヤ殆ント現狀維持派ノ國際倶樂部ト化シタルノ觀アリ

二、蘇聯自身カ聯盟ノ實狀ヲ過信セサルハ「スターリン」ノ聯盟加入ニ關スル演說及蘇聯機關紙ノ論說等ニ依リテモ明白ナルカ蘇聯カ日本及獨逸ヨリ來ル戰爭ノ危險ニ對シ多少トモ聯盟ヲ利用シテ其ノ外交工作ニ一歩ヲ進メントスルノ下心ヲ有スルハ「リトビノフ」ノ總會ニ於ケル演說中ニモ之ヲ看取シ得タル處ナリ蘇聯カ近キ將來ニ聯盟ヲ驅ツテ政治的財政的若ハ軍事的ニ反日行動ニ出テシムルカ如キハ素ヨリ至難ナルヘキモ日蘇關係ノ改善ヲ見サル限リ今後機會有ル毎ニ日本ヲ平和ノ攪亂者ナルカ如クニ誣ヒ一朝事有ル時外交上ニ有利ナル地位ヲ占メント計ルコト明カニシテ壽府ハ蘇聯對外宣傳ノ一中心トナリ事情ニ暗キ多數國ノ輿論ハ容易ニ之ニ乘セラルルノ虞アリ帝國トシテハ國策ノ遂行ニ當リ公正妥當ナル態度ヲ中外ニ宣揚スル爲今日ヨリ組織的且積極的ニ對抗宣傳網ヲ充實スル要アリト思考ス

三、[2]日支問題諮問委員會ニ於テ先決問題トナリタル滿洲國郵便料金問題、同國ニ對スル麻藥類輸出取締及同國ヲ承認セル「サルバドール」ニ對スル善後措置等ノ諸件ニ付テハ本來今次總會ニ報告ヲ要スル筋合ナリシモ事務局側ハ特ニ愼重ノ態度ヲ執リ右報告ヲ差控ヘタル旨係官ヨリ内話アリタルカ關係委員等ニ於テモ各國委員中之ニ言及セシ者ナシ又支那代表ノ總會ニ於ケル演說モ何等反響ナク支那ハ結局非常任理事國再選ニモ失敗シ對支技術援助問題ニ付テモ委員會ニ於テ御座成報告ヲ見タルニ過キサル有樣ニテ要スルニ聯盟ノ對支態度ハ冷淡トナリタリ

四、所謂東方「ロカルノ」協定ハ殆ント失敗ニ歸シタルモノト見ラレ今後ハ蘇佛同盟又ハ類似ノ地方協定ニ進展スルノ可能性アルモ佛トシテハ對英關係ヲ顧慮スルコトナク且佛波同盟條約竝ニ「ライン」不可侵ヲ約スル「ロカルノ」協定トノ調整ヲ爲サスシテ之ヲ實現スルコトハ不可能ナルヘキヲ以テ假令右ト融和セシメ聯盟規約ノ範圍内ニ於テ蘇佛同盟ヲ實現スルニ至ルモ其ノ實質的效果ハ薄弱ナルヘシ

他方波蘭ハ少數民族問題ニ付國際會議召集ノ提案ハ之ヲ撤回シタルモ自國ニ對スル聯盟ノ「コントロール」ニ反對スルノ固キ決心ヲ有スルモノノ如ク今後理事會ニ於ケル本問題ノ推移ハ注目ニ値スヘシ

五、總會中墺太利獨立問題ヲ中心トシテ關係國間ニ私的會談頻繁ニ行ハレタルモ英ハ墺ノ獨立保障ニ付テハ其ノ義務ヲ負フコトヲ欲セス佛ハ伊、小協商及墺ヲ加ヘ經濟上若ハ政治上ノ地方協定ヲ成立セシムル爲ニ努力シツツアルモノノ如ク「バルツー」ハ再ヒ來壽後モ主トシテ本問題解決ニ當リタルカ如キモ具體的解決ニ到達セス何レニセヨ聯盟自體トシテ積極的ニ本問題ノ解決ニ乘出スコト難カルヘシ

在歐米各大使、波蘭、知惠古ヘ暗送セリ

41　昭和9年11月12日　在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事より広田外務大臣宛（電報）

連盟委任統治委員会における南洋群島港湾施設費増額問題などの討議状況について

別　電　十一月十二日発在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事より広田外務大臣宛第二

五三号　南洋群島港湾施設費増額問題に関する理事会宛委員会報告

ジュネーヴ　11月12日後発
本　省　11月13日前着

第二五二號

往電第二四六號ニ關シ

鮭延委員ヨリ左ノ通

委任統治委員會ハ十一月十二日閉會

南洋群島行政年報審査ノ際軍事的施設ニ關スル新聞記事ニ付再ヒ質問應答アリタルカ右ハ一昨年一部委員間ニ豫メ打合セノ上問題ヲ提起シタル場合トハ異ナリ外國人ノ渡航往來ニ關スル取締ノ有無ニ付一、二新聞記事ヲ引用シ一委員ヨリ質問アリタル際伊藤代表ヨリ此ノ種新聞記事ニハ信ヲ置キ難キ旨但シ記載事項ニ付政府ニ轉報眞相ヲ闡明セシムヘキ意味ノ答辯ヲ爲シタルニ對シ伊、瑞兩委員ヨリ斯ノ如キ方法ハ果シテ充分効果ヲ擧ケ得ヘキヤ否ヤ現ニ防備問題ニ付依然トシテ各國新聞ハ種々ナル風説批評ヲ試ミツツアルニ非スヤト述ヘ偶然防備問題ヲ蒸シ返シタル様ノ次第ニテ委員會ノ大勢ハ決シテ帝國政府ニ對シ疑惧ノ念ヲ抱ケルモノトハ思考セラレス寧ロ世間ノ風評ノ執拗ナル手前委員會トシテ全然之ヲ默過スルコトハ其ノ責任上如何ニヤトノ觀念ニ支配セラレ居ルモノト思考ス現ニ日本行政年報ニ關シテ理事會ニ提出スヘキ委員會ノ報告案ハ直接本問題ニ觸ルルコトナク單ニ別電第二五三號ノ通事實問題ヲ擧ケテ帝國政府ノ説明ヲ求ムルニ止メタルカ全員何等異議ナク之ヲ可決シタルニ徴スルモ委員會全体トシテノ意嚮ヲ察知シ得ヘク又右港灣施設ノ經費問題トテモ極メテ簡單ニ説明シ得ル程ノモノナレハ右報告ハ委員會ニ於テ相當問題トナリタル事項ニ付理事會ニ一言セサルモ如何ヤトノ見地ヨリ出テタル寧ロ申譯的ノモノト本員ハ解シ居ル次第ナリ

但シ南洋防備ニ關スル不都合ナル記事ニ對シ對策ニ付勿論當局ニ於テ充分御考慮中ノコトト存スルモ恰モ年報審査ノ機ヲ利用シテ一部新聞ノ「キャンペーン」モアリタル模様ニ付委員會内ノ模様ニ付右ノ次第何等御參考ノ爲貴聞ニ達ス

本電別電ト共ニ米ニ轉電シ英、佛、伊、波ヘ暗送セリ

（別　電）

ジュネーヴ　11月12日後発
本　省　11月13日前着

No.253

Commission noted the Accredited Representative's Statement that sums spent on equipment of the ports in certain islands under mandate had purely civil and commercial purposes. Nevertheless, it appears to Commission that amount of this expenditure was some what disproportionate to volume of commercial activity.

The Commission would be glad to find farther particulars on this subject in next report.

42　昭和9年11月30日

栗山(茂)条約局長より
在満州国谷(正之)大使館参事官宛

満州国赤十字社の国際赤十字加盟問題に関する同国際委員会事務総長との会見録送付について

半公信

昭和九年十一月三十日

條約局長　栗山　茂

在滿
大使館參事官　谷　正之殿

滿洲國赤十字社ノ國際赤十字加盟問題ニ關スル赤十字國際委員會事務總長「シドニー・ブラウン」意見送付ノ件

拜啓陳者過般國際赤十字委員會事務總長「シドニー・ブラウン」本官ヲ來訪、滿洲赤十字ト國際赤十字トノ關係ニ關シ意見ヲ交換致候ニ付右會見錄寫何等御參考迄送付致候　敬具

（別　添）

滿洲赤十字ハ國際赤十字ニ如何ナル程度ニ於テ協力シ得ルヤニ關スル國際赤十字委員會事務總長「シドニー、ブラウン」意見

昭和九年十一月九日第十五回國際赤十字會議ニ參列シタル國際赤十字委員會事務總長「シドニー、ブラウン」條約局長ヲ來訪シ滿洲赤十字ノ國際赤十字ニ對スル協力問題ニ付要旨左ノ通述ベタリ

一、先ヅ「ジュネーヴ」條約ニ滿洲國政府ガ加入スル可能性ニ付テハ一九三三年國際聯盟諮問委員會決議ニ鑑ミ加入通知ヲ正式ニ瑞西聯邦ニ送付スルコトニ依リ同條約ニ加入スルコトハ困難ナルベキヲ以テ何等カノ方法ニ依リ事實上加入ト同一ノ事態ヲ誘導スル手段アリヤノ問題ヲ考ヘ得ベキ處右ニ對シテハ左ノ二方法アルガ如シ

㈠滿洲國政府ガ「ジュネーヴ」條約ニ對スル加入書ヲ瑞西聯邦ニ送付スル代リニ「ジュネーヴ」國際赤十字委員會ニ送付シタリト假定スルニ國際委員會ハ聯盟諮問委員會決議ニ拘束セラレザルヲ以テ右加入通知書ハ之ヲ受理スルコトヲ得ベク然シテ右通知書ハ同委員會ニ關スル限リ有效ナリト思考セラル右受理ノ後ハ同委員會ハ「ジュネーヴ」條約各締約國及各國赤十字社ニ右加入ノ事實ヲ通知スベシ同委員會ハ其受理シタル通知書ヲ瑞西聯邦ニモ移牒スベキ處右聯邦政府ハ其措置方ニ付甚シク困惑スベキ事態ニ置カルルコトトナルベシ右手續ハ既ニ國家トシテ承認シ居ラレザリシ蘇聯邦ノ加入ノ際國際赤十字委員會ノ採リタル手續ニシテ右ハ新シキ先例ヲ開クモノニハ非ズ

㈡滿洲國政府トシテハ條約加入ノ手續ヲ避ケ「ジュネーヴ」條約ニ付其人道的性質ニ鑑ミ一方的ニ其原則若ハ規定ヲ遵守スベキ旨宣言ヲ爲シ右宣言ヲ赤十字國際委員會ニ通知スルニ於テハ同委員會ハ之ヲ「ジ」條約各締約國及各國赤十字社ニ通報スベシ右ハ瑞西聯邦ニモ移牒スベキ處同聯邦ハ之ニ對シテハ如何ナル措置ヲ採ル權限モ無カルベシ

右二方法ノ中何レカ一ノ方法ヲ滿洲國カ執リタル場合國際赤十字委員會トシテハ滿洲ニ創設セラルルコトアルベキ獨立ノ赤十字社ヲ認可スルコトヲ得ベク右認可ハ聯盟不承認決議ノ末段 Certaines commissions et associations internationales non crées par voie de convention internationale ニ該當スルモノトシテ不承認ノ例外ヲ構成スル場合ナリト認メ得ルガ如シ

何レニセヨ滿洲赤十字ノ認可ニハ滿洲國政府側ノ「ゼスチュア」ヲ前提トス

滿洲赤十字ガ赤十字國際委員會ニ依リ認可セラレタル曉ニハ同赤十字ハ次回赤十字國際會議ニ參加スル權利ヲ有スベシ尙滿洲國政府自体ノ代表派遣ハ「ジュネーヴ」條

約ニ同國ガ正式ニ加入シタル場合ニ於テノミ可能ナリ赤十字國際會議ニ政府代表ノ出席ナク赤十字社代表ノミノ參加スルコトハ今回ノ會議ニ於テモアリタルコトニシテ例ヘバ「ダンチッヒ」「コスタリカ」等ハ之ノ例ナリ尙「アフガニスタン」ハ赤新月社未ダ成立シ居ラザル爲今回會議ニハ政府代表ノミノ出席ヲ見タリ又獨立シタル國家ニシテ赤十字ニ協力シ居ラザルモノトシテハ「サウディ、アラビア」王國ノ如キ例アルノミナリ(同國ハ「ジュネーヴ」條約ニモ參加シ居ラズ)

二、右ニ對シ條約局長ヨリ同人壽府ニ歸リタル後「マクス、フーバー」(會長)トモ相談ノ上意見ヲ取纏メ條約局長若ハ局員ニ私信ヲ以テ通報セラレタキ旨希望セラレタル處同人ハ之ヲ了承セリ尙局長ハ同人今般渡滿ノ際ハ局長トノ前記會談ノ次第ヲ在滿谷參事官ニ内報シ置ク樣慫慂セリ

～～～

凡ソ司法裁判所裁判官ノ選擧權ヲ失フニ拘ラス紛爭ヲ同裁判所ニ付託シ其ノ裁定ヲ受クルハ非ナリト爲ス論ハ一面体面論タルト共ニ他面同裁判所カ帝國ニトリ不利偏頗ナル裁定ヲ爲スノ虞アルカ爲メナリト謂フニ在ルカ如キモ右体面論ハ形式論ニ過キス且聯盟ヲ脱退シナカラ聯盟國タル資格ニ伴フ權利ノミハ之ヲ保持セントスルカ如キハ不條理ニシテ虫ノヨキ言分ナリ又裁判所カ帝國ニ對シ不利偏頗ナル裁定ヲ爲スヘキコトヲ危惧スルハ當然ナルモ帝國ハ現ニ日本人タル裁判官ヲ有シ且外國人タル裁判官ノ選擧ハ之ヲ左右シ得サルコト前述ノ通ナレハ實際問題トシテハ今直ニ國際司法裁判所ヨリ脱退スルカ如キハ無益ナルヤニ認メラル況ンヤ右脱退ハ内ニハ國際聯盟脱退後ト雖トモ帝國ハ平和各般ノ企圖ニ戮力シテ渝ル所ナシトノ詔書ノ御趣旨ニ反ストノ非難ヲ蒙ルノ虞アリ外日本ハ世界平和ノ事業ヨリ遠サカリ益々帝國主義的政策ヲ實行セントスルモノナリトノ危惧ヲ懷カシムヘキニ於テオヤ

就テハ國際司法裁判所ニ對スル方針トシテハ我國人タル裁判官ノ任期終了又ハ辭任等ノ事實ニ依リ後任選擧ノ必要生シ我國人ノ當選ヲ見サル場合カ又ハ我國人タル裁判官在任中ト雖トモ帝國カ聯盟脱退ノ結果裁判所カ帝國ニ對シ不利偏頗ナル裁判又ハ決定(即チ聯盟理事會等ノ諮問ニ對スル意見)ヲ爲シタル場合ニ於テ始メテ同裁判所ヨリ脱退スルコトトスル方得策ナルヘク日蘭仲裁裁判條約議定書第二項ハ此ノ趣旨ニ依リ樞密院等ヘモ説明スルコトヲ得ヘシ右ノ如キ場合ニ脱退スルニ於テハ内外ニ對シ十分ナル名目モ立チ世人之ヲ首肯シ得ヘシト考ヘラル尚又帝國カ司法裁判所ニ留マレル間ニ同裁判所規程改正議定書カ效力ヲ發生シ我國モ裁判官ノ選擧權ヲ有スルニ至ラハ更ニ好都合ナルヘシ政府カ右ノ方針ニテ進ムニ拘ラス樞密院側ニ於テ飽迄「アカデミック」ノ議論ニ捉ハレ我國カ他ノ列强ニ比シ劣等ナル地位ニ立チナカラ國際司法裁判所ニ留マルヲ非トスルニ於テハ裁判官選擧權喪失ノ如キハ聯盟脱退ニ伴フ當然ノ結果ニシテ聯盟脱退ト同時ニ豫期シタルモノナリ聯盟脱退ノ承認ハ斯カル權利ノ喪失ヲモ認メタルコト勿論ト謂フヘク或團体ヨリ脱會シテ義務ハ失フモ權利ノミハ保持セントスルカ如キハ甚シキ謬見ナルコトヲ説示スヘキナリ(尤モ樞府側ニ於テ右政府ノ方針ニ反シ脱退ヲ可トスヘシトノ結論ニ達スルカ如キ場合アリ政府カ一歩ヲ讓ツテ之ニ從フカ如キコトアリトスルモ政府側ニ於テ最初ヨリ脱退方針ヲ以テ進ムヨリモ可ナルヘシ)

44　昭和9年12月29日　在オランダ武富公使より広田外務大臣宛(電報)

安達常設国際司法裁判所判事の葬儀について

ハーグ　12月29日後発
本省　12月30日前着

第一六一號

往電第一六〇號ニ關シ

葬儀ハ蘭國政府ニ於テ外交使節逝去ノ際ト同様ノ儀禮ヲ以テ執行ノコトニ決定右ハ平和宮ニ於テ三日執行ノ豫定